

Hokkaido University News

# 北大時報

平成28年

# 11

No. 752 November 2016

秋の叙勲に本学から4氏

喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが「平成28年北海道功労賞」を受賞



1 Hokkaidoサマー・インスティテュート  
2016を終えて

## ■ 全学ニュース

- 2 秋の叙勲に本学から4氏
- 7 喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが「平成28年北海道功労賞」を受賞
- 8 独立行政法人日本学術振興会 平成28年度科研費審査委員の表彰に本学から11名
- 9 第12回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催
- 9 イチヨウ並木の一般開放を実施
- 10 北大フロンティア基金
- 12 平成28年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催
- 12 「北海道大学進学相談会」を名古屋と大阪で開催
- 13 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
- 14 北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- 15 平成28年度秋季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催
- 16 インターナショナルハウス等で消防避難訓練を実施
- 16 秋のガレージセールを開催
- 17 留学生を対象に市民防災センター・旭山記念公園バスツアーを開催
- 18 北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画を開催
- 18 「製薬企業3社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催
- 19 キッズフォレスト2016「科学の森」に参加
- 20 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）に参加
- 21 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者（DC, PD）向けLunch Talk（Way of Tea）を開催

## ■ 部局ニュース

- 22 総合化学院と国立台湾大学工学院がダブル・ディグリー・プログラム及びコチュテル・プログラムの覚書を締結
- 22 農学研究院で「第2回国際食資源学フォーラム－国際食資源問題に立ち向かう人材育成－」を開催
- 23 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「旅は東アジアを変えるのか？」が終了
- 24 北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
- 31 経済学研究科で延世大学校商経大学と共同セミナーを開催



総合化学院  
国立台湾大学工学院とダブル・ディグリー・プログラム及びコチュテル・プログラムの覚書締結



北方生物圏フィールド科学センター  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～



イチヨウ並木の一般開放



平成28年度秋季外国人留学生ウェルカムパーティー

- 31 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナー「観光と地域開発」を開催
- 32 経済学研究科・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
- 32 経済学部で第3回プレゼン大会を開催
- 33 経済学研究科・経済学部で「学部生、研究生のための大学院ガイダンス」を開催
- 34 教育学院・教育学研究院・教育学部でFD研修を開催
- 34 獣医学研究科で動物慰霊式を挙行
- 35 消防訓練・防災訓練等の実施
- 39 函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
- 39 附属図書館で「ウィキペディアキャンパス in 北大」ワークショップを開催
- 40 北海道大学病院で北海道国際医療ネットワークを開催
- 41 Quizon氏、稲葉氏が環境健康科学研究教育センターを訪問

## ■ 諸会議の開催状況 42

## ■ 学内規程 42

## ■ 研修

- 43 平成28年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修初級編）
- 43 平成28年度北海道地区国立大学法人等アドバイラストレータ研修

## ■ 表敬訪問 44

## ■ 人事 45

- 46 新任教授紹介

## ■ 訃報

- 47 名誉教授 西村 雅吉 氏
- 47 名誉教授 芳村 仁 氏
- 48 特任准教授 徳井 美智代 氏

## ■ 資料

- 49 役職員数（平成28年10月1日現在）
- 50 在籍学生数（平成28年10月1日現在）
- 52 広報誌等一覧（平成28年10月調査）



経済学研究科・経済学部  
外国人留学生懇親会



消防訓練・防災訓練等の実施



## Hokkaidoサマー・インスティテュート 2016を終えて

理事・副学長 うへだ いちろう  
上田 一郎



今年度からHokkaidoサマー・インスティテュートが正式に始まりました。本年は、6月1日（水）から9月13日（火）の期間に、国内外から114人（うち海外から91人）の研究者を招聘して、71科目の授業を開講しました。研究者のうち5人は外国人招へい教員制度によって招聘された方です。履修した学部生・大学院生は延べ917人にのぼり、このうち196人が海外の大学の学生、その他に国内他大学の学生も4人いました。招聘した研究者には授業の他に、講演会、セミナー、論文指導、研究指導などの教育研究活動にも参加していただきました。教員の皆様には授業の実施に留まらず、様々な教育研究活動にこの制度を活用していただけたことで、大変実り多いHokkaidoサマー・インスティテュート2016になったと思っています。皆様のご協力にお礼申し上げます。

Hokkaidoサマー・インスティテュート2016の授業科目は、大学院の科目は大学院共通授業科目として、また学部の科目は国際交流科目として位置づけ、通常の履修登録で受講できるようにしました。海外や他大学の学生はウェブから出願でき、登録した学生の情報を国際本部（本年10月1日以降は国際連携機構）が管理して授業を履修できるようにしました。これとは別に、外国人招へい教員制度を活用して来られた先生と共に企画した授業など、部局において独自に英語で開講する授業もHokkaidoサマー・インスティテュートのサテライトスクールとして、本事業の一環と位置づけることができました。

Hokkaidoサマー・インスティテュートについて、学生アンケートでは、北大のキャンパスにしながら英語漬けの

数日間を経験できて有意義だったとのコメントが多数あり、Hokkaido Universal Campus Initiativeで謳った「北海道大学キャンパスの国際化」に貢献できる取り組みになったと思っています。一方、教員からは課題として、本学学生への広報の不足、通常科目との開講時間の重複、教室の確保の難しさなどご指摘いただきました。今後改善していきたいと思っています。

Hokkaidoサマー・インスティテュートの来年の申請は既に受け付けを終了しています。来年度開講科目については申請方法を変更しました。前回の申請では、教員個人に申請の責任者となっておりましたが、より部局としての方針にかなったプログラム構成にできるように、申請の責任者を部局等の長としました。また、開講期間となるセッション単位を2週間にして、より柔軟なカリキュラム編成ができるようにしました。来年度の開講科目は、大学院生向け83科目と学部生向け15科目の合計98科目の開講を予定して準備を進めています。

また、来る12月1日（木）には、「海外大学との英語による協働教育をどう進めるかー学内の好事例と今後の課題」と題して、Hokkaidoサマー・インスティテュート、海外ラーニング・サテライト等で2015年と2016年に実施した英語授業の分析と今後の方向性について、現場の先生方に論議していただく場を設定しました。クラーク講堂において、午後1時より同5時過ぎまで開催します。活発な議論が交わされることを期待しています。

本学の国際化に、教職員の皆様の益々のご支援とご協力をお願いいたします。

## ■全学ニュース

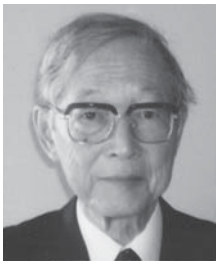
# 秋の叙勲に本学から4氏

この度、本学関係者の次の4氏が、平成28年秋の叙勲を受けることについて、11月3日（木・祝）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝重光章	名誉教授（元 総長）	中村 睦男
瑞宝中綬章	名誉教授（工学研究科）	福迫 尚一郎
瑞宝中綬章	名誉教授（経済学部）	白井 孝昌
瑞宝双光章	元 看護部長	川畑 いづみ

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



なかむら むつお  
**中村 睦男 氏**

### 感想

この度、叙勲の栄に浴し、長年にわたりお世話になりました北海道大学の歴代の教職員の皆様、及び大学を支援してくださった多くの

皆様に心より御礼申し上げます。

私が研究者を志した当時の法学部は、学部創設期の先生方が、文系の学問が北の大地に根付くよう、研究環境の整備に力を入れるという伝統を築いた時期でした。内外の史料や主要国の判例集などの図書の実と研究時間の確保は、研究にとって大きな支援になりました。また、恩師から若い時に外国留学を強く勧めてもらったことも大きな糧になりました。

教育に従事した30年間では、学部の「憲法」と全学教育部（教養部）の「日本国憲法」という受講学生数の多い科目を担当していたことから、多くの学生に接して、刺激を受けるという幸運な生活を続けることができました。また、ほぼ毎年「演習」を担当しましたので、卒業生が社会の各分野で活躍していることを嬉しく思っております。

北海道大学総長としての6年間では、国立大学の法人化への対応が最大の課題でした。国立大学の法人化は、大学の自主的運営の基盤と行政改革の手段という2つの性格を併せ持っていました。国立大学協会（以下、国大協）は、法学や経済学の専門家を含む特別委員会を設け、法人化に関する文部省（当時）の「調査検討会議」にも参加して、国立大学の意向が反映するよう努力しました。その結果、

大学の特性に配慮した国立大学法人法が制定されることになり、国立大学法人は独立行政法人通則法に基づく独立行政法人とは異なった制度になったというのが、国大協の理解でした。ところが、法人化とともに運営費交付金の一律削減が行われる方針が文部科学省より伝えられ、国大協は政治学者である会長のリーダーシップの下で強く反対しました。しかし、結局は行財政改革の大きな流れに抗しきれず、毎年1%の効率化係数が運営費交付金にかけられることになりました。

今日、運営費交付金の一律削減が大学の研究力の停滞を招いているという声が高まっていることは、大変気がかりなことです。

大学と社会との連携の強化は、産学連携の拠点としての北キャンパス・創成科学共同研究機構の設置、連合同窓会の誕生などによって推進していくことになりました。また、文理融合の公共政策大学院、観光学高等研究センター、アイヌ・先住民研究センターの設置は、地域社会への貢献も期待されていると思っております。また、学長中心のマネジメントが求められる新しい型の競争的資金として始まった「21世紀COEプログラム」に対し、全学的に取り組んでいただいたことに強い印象をもっています。

### 功績等

#### 1. 総長としての功績について

1) 国立大学法人化の際には、役員会、教育研究評議会、経営協議会を設置し、また、アドバイザーボードとして役員補佐を置き、法人化後の強力な運営体制を構築した。教育研究支援本部や、情報環境推進本部を立ち上げ、運営組織の改革を積極的に行った。

- 2) 学生所属組織と教員所属組織を分離することによって、伝統的な学問分野での研究の蓄積を発展的に継承するとともに、先端的・学際的な研究と知識の教授を目的とする学院・研究院構想を積極的に進めた。医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、北海道大学病院を発足させた。また、専門職大学院を設置し、大学院の重点化に尽力した。
- 3) きめ細かな成績評価を行うため、5段階の成績評価制度やGPA制度を導入した。さらに、研究教育プロジェクトの開発、全学教育・学部専門教育・大学院教育の質の向上及び学生支援などを目指した教育改革促進事業を積極的に支援するなど、教育環境・教育内容の改善や充実などの教育改革を推進した。
- 4) キャリアセンターを設置し、学生の多様な就職活動を組織的に支援した。さらに、専門研究員制度を設け、将来研究者などを志す者の研究継続を支援した。また、授業料免除者数の拡充、授業料や入学料の返還免除基準の緩和など、学生への経済的支援を積極的に推進し、北大ペンハロー賞、北海道大学新渡戸賞などの顕彰を導入した。
- 5) 留学生誘致プログラム、留学生サポーター制度、留学生宿舎の整備などの留学生受け入れのため諸制度や環境整備を主導した。
- 6) アイヌ民族や先住少数民族に関する全国的・国際的な研究教育を実施することを北海道大学の責務とすることを宣言し、この宣言を踏まえ、学際的で高度な教育研究を担うアイヌ・先住民研究センターを設置した。
- 7) 地域社会に対しては、北大リサーチ&ビジネスパーク構想を軸とした産学連携推進に貢献した。また、知的財産本部の設置により、大学が持つ知的財産を有効に活用し、新技術・新製品の開発やベンチャー企業の創出をするなど、産業等の発展を通じて地域経済の活性化につながる基盤を強化した。
- 8) ポジティブアクション北大方式を導入し、女性研究者の雇用促進を積極的に推進した。また、北海道大学女性研究者支援室を開設し、女性研究者が研究と育児の両立をはかるシステムをまとめたほか、札幌キャンパス内に認可保育園「子どもの園保育園」を開園するなど、女性研究者に対する具体的な支援策を講じた。
- 9) 創成科学共同研究機構、情報基盤センターなど教育研究推進の基盤となる環境を整備した。大型競争的資金獲得支援、先端的融合学問領域創成支援などの取り組みを積極的に展開した。北海道大学創基130年を機に、北大フロンティア基金を創設し、大学の教育研究基盤の一層の充実に資するための積極的な募金活動を展開し、自主財源の獲得にも尽力した。
- 10) 北海道大学創基125周年の記念事業において、新渡戸稲造夫妻による「遠友夜学校」由来の「遠友学舎」を開設した。また、大学内を流れているサクシュコトニ川の再生事業を進めたほか、大学をより身近に感じてもらうことを目的として、緑のピアガーデンを企画段階から主

導して開催した。

- 11) 産学官連携の推進、教職員の活動拠点、大学情報の提供、学生の就職活動及び同窓生の交流を図るため、東京オフィスを開設した。学内にあっては、北大交流プラザ「エルムの森」、また、学部同窓会と地区同窓会を束ねる組織として北海道大学連合同窓会を設立するなど、地域社会に開かれた大学への取り組みに尽力した。

## 2. 行政協力等における功績について

北海道知事が設置したウタリ問題懇話会・新法問題分科会長として、我が国初の先住民族立法に係る答申を取りまとめたが、この答申は、先進性と堅実性を兼ね備えた提言として高く評価されている。引き続き内閣官房長官の諮問機関として設置された「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」において座長代理として審議を実質的に主導した。この提言を受け、政府は、「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」を制定し、施策の実施を担う組織としてアイヌ文化振興・研究推進機構を設置した。これらのアイヌ施策への貢献が高く評価され、平成27年に北海道知事から最高の褒賞である北海道功労賞を授与された。

## 3. 学術分野における功績について

- 1) 昭和48年に出版された「社会権法理の形成」において、社会権がどのような思想的背景の下に、どのような法理論として形成されてきたのかを、フランス憲法史を素材にして綿密かつ詳細に分析し、我が国の社会権論に対して極めて鋭い問題提起を行った。社会権の基底における自由権の存在と両者の相互関連性を強調し、社会権の基本的な捉え方を罷業権、組合権、労働権、生存権や教育を受ける権利について展開した。
- 2) フランス憲法院に注目し、その制度のありようを紹介し、フランス憲法院が下した注目すべき判決を分析した成果を発表した。フランスにおける人権保障についての研究に取り組み、人権保障や違憲審査制度のフランス的特徴をいち早く我が国に紹介した。このような研究活動が評価され、フランス政府からフランス教育功労賞オフィシエ勲章が授与された。
- 3) 憲法学者の従来の立法過程研究は、関連条文の解釈論、もしくはそれに基づく静態的な制度論にとどまっていたのに対して、立法過程の実態に関する正確な理解を踏まえた議論の重要性を特に重視し、こうした観点から実際に立法に携わっている実務家を巻き込んで展開した共同研究の成果は、憲法学界に対してだけでなく、立法実務に対しても大きなインパクトを与えた。

## 略 歴

生年月日 昭和14年2月7日  
 昭和38年4月 北海道大学法学部助手  
 昭和45年7月 北海道大学法学部助教授  
 昭和49年7月 北海道大学法学部教授



昭和59年12月  
平成2年12月 } 北海道大学評議員  
昭和63年12月  
平成2年12月 } 北海道大学法学部長・法学研究科長  
平成9年4月  
平成9年9月 } 北海道大学教養部長  
平成9年4月  
平成11年3月 } 北海道大学副学長、北海道大学評議員  
平成12年4月 北海道大学大学院法学研究科教授  
平成13年4月 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育  
研究センター教授  
平成13年5月  
平成19年4月 } 北海道大学総長  
平成19年5月 北海道大学名誉教授  
平成19年9月  
平成22年3月 } 北海学園大学大学院法学研究科教授  
平成20年4月 学校法人北海学園理事

(総務企画部総務課)



ふくさこ しゅういちろう  
**福迫 尚一郎 氏**

**感想**

この度は、はからずも叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄と恐縮いたしております。まず何よりも、これまで私を支えてくださいました恩師、共同研究者、同僚、学生、事務官、技官の皆様方に、心より感謝申し上げます。

北海道大学に憧れ、九州最南端の地より4年間のつもりで参ったのですが、すでに60年有余を過ごしております。南満州鉄道株式会社・撫順炭鉱に勤務されていた高校時代の恩師・小倉一郎先生の影響を受けたのが、大きな要因でした。昭和35年、磯部俊郎先生のご指導をいただき、工学部鉱山工学科を卒業後、北海道炭礦汽船株式会社に採用され、夕張の地で約2年間の坑内勤務をしました。炭鉱は最盛期にあり、夕張の人口は約12万人でしたが、オーストラリアでの大炭鉱の開発に関わる論文に接し、日本の炭鉱が置かれた自然条件の下では将来大変なことになる、若造の考えでしたが専門を変えることを決心し、工学部機械工学科の学士入学試験にたまたま合格出来ましたので、学徒の生活に戻りました。

以降8年余、有江幹男先生（のち北海道大学長）のご指導をいただき、学生生活を終えることが出来ました。その間、研究室の先輩・助教授の木谷 勝先生（のち釧路工業高等専門学校長）には、実験室で机を並べて、常時あらゆることをご相談させていただくことが出来たことは、学位論文作成の過程でも、最高の幸せでした。

幸いにも、新設された伝熱工学講座の関 信弘先生に採用いただきましたが、専門が全く異なるため、自転車操業

的に勉強した講義内容を聞いてくれた学生達には、今も謝りたい気分です。停年まで勤務させていただきましたことは、感謝以外の何ものでもありません。世界のメジャーの学会誌に多くの論文を投稿することが出来たのは、ひとえに、研究室の優秀な学生、大学院生、特に諸般の事柄を円滑に実行してくれた山田雅彦准教授のおかげです。

終わりになりますが、退官のときに書かせていただいた課題『私は何者なのか。何処から来て、何処へ行くこうしているのか。』、いまだに、このことが人生の課題であり続けております。北海道大学の更なる発展を、心からお祈りいたします。

**功績等**

福迫尚一郎氏は、昭和12年11月24日に熊本県に生まれ、同35年3月北海道大学工学部鉱山工学科を卒業し、同年4月北海道炭礦汽船株式会社に勤務の後、同37年3月同社退職、同年4月北海道大学工学部機械工学科に入学し、同45年3月北海道大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程を修了、工学博士の学位を取得されました。昭和45年8月北海道大学工学部機械工学第二学科講師に採用され、同46年7月助教授、同61年教授を経て、平成9年4月北海道大学工学部改組に伴い、北海道大学大学院工学研究科教授とされた後、同13年3月に停年にて退官、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

学部においては、熱工学の基礎教育を、また、大学院においては、伝熱制御工学特論などの講義、演習を担当されるとともに、学生の研究指導にあたり、数多くの技術者及び教育・研究者を育成し、工学教育に尽くされました。研究面では、特に積雪寒冷地に関わりの深い低温環境に関する熱工学の問題に取り組み、数多くの業績を挙げられました。

「雪氷の凍結・融解熱伝達に関する研究」では、凍結閉塞が発生する条件を整理し、凍結閉塞の防除に関する有用な提案をされました。「着氷・着雪に関する基礎研究」では、北洋などの寒冷海洋を航行する船舶や航空機の着氷による転覆や墜落などの事故対策として、実際のデータに基づく検討から実用上非常に有用な研究を行い、その研究成果から防除機構の研究の端緒を与えました。また、早くより「水スラリーの熱・流動特性」に着目され、それらの研究成果は、近年、世界的に研究が推進されている氷蓄冷熱に関する要素研究を網羅されており、同分野の先駆的研究として世界から高く評価されています。

学内においては、工学研究科長・工学部長として、工学部・大学院重点化による改組から間もない工学研究科の運営のために尽くされ、現在の工学研究院の礎となる組織の改革案を提唱し、推進されました。

学外においては、多数の学協会の理事、会長などを歴任し、各学協会の運営と発展に貢献され、特に、日本機械学会からは、熱工学の分野における永年の功績に対して、熱工学部門永年功績賞を授与されました。

以上のように、北海道内の大学の教育・研究と、熱工学分野の学術研究の発展と学術研究成果の地域への具体的還元尽力したものであり、その功績は誠に顕著であります。

## 略歴

生年月日 昭和12年11月24日  
 昭和45年8月 北海道大学工学部講師  
 昭和46年7月 北海道大学工学部助教授  
 昭和61年4月 北海道大学工学部教授  
 平成7年6月 } 北海道大学評議員  
 平成9年5月 }  
 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科教授  
 平成10年4月 } 北海道大学評議員  
 平成12年3月 }  
 平成10年4月 } 北海道大学大学院工学研究科長・工学部長  
 平成13年3月 }  
 平成13年3月 北海道大学停年退職  
 平成13年4月 北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



しらい たかまさ  
白井 孝昌 氏

## 感想

この度は叙勲の栄を賜り光栄に存じます。北海道大学経済学部の助教授として赴任致しました昭和47年4月は、札幌で冬季オリンピックが開催されて間もなくのことでした。当時、経済学部では石垣博美先生のご尽力によりまして、アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市のポートランド州立大学（PSU）と国際交流が行われていて、北大に来訪されていたPSU学生諸氏に日本の諸事情を説明する講義を赴任直後の私が致しましたが、それを契機として札幌のアメリカン・センターなどの国際交流活動に関わる機会が多くなり、やがて国際交流委員として北大の「英文カタログ」の編纂に参加することになりました。

北大英文カタログの1981-82年版所収の「北大百年史」（2. HISTORY, pp.2-26）は私が執筆したものです。それ以前に英文の北大史は「北海道帝国大学50年史」（The Semi-Centennial of the HOKKAIDO IMPERIAL UNIVERSITY, JAPAN, 1876-1926）で、その筆名は記されていませんが、私の調べた限りでは、北海道帝国大学予科の英語教師ハロルド・レーン先生の執筆によるものようでした。その調査の結果として、私が国際交流委員を退任した後に出版された北大英文カタログの2000-2001年版のAppendixに収録されている私のHistory (pp.292-303)に、「不幸な挿話（An Unfortunate Episode, p.304）」という題名で、レーン先生の事跡を追加

させていただきました。

レーン先生ご夫妻は、帝国艦隊がパール・ハーバーを攻撃した直後、1941年12月8日の朝、特高警察にスパイ容疑で逮捕され、その後、インドのゴア経由でアメリカに帰国されました。しかし、1951年に北大の要望に応じて北大に戻られ、教養部の英語教師としての仕事に加え、毎週金曜日にご自宅を学生に開放（Open House）なさったのです。

人間の運命は様々で、立派な仕事をした人でも報われない場合がしばしばあるものです。レーン先生に比べれば、私など北大植物園に無料で入園する特権を与えられている上に、叙勲まで戴いて恐縮至極に存じます。やがて来る「英文北大150年史」、更には「英文北大200年史」の執筆を担当なさる方々に加えて、その他にも色々な活動で北大に貢献される方々のご多幸をお祈り申し上げます。

## 功績等

白井孝昌氏は、昭和10年5月24日朝鮮慶尚南道釜山府に生まれ、同33年3月香川大学経済学部経済学科を卒業、同37年10月大阪大学大学院経済学研究科博士課程を退学し、同年11月に大阪大学経済学部助手に採用され、同42年10月に講師に昇任後、同45年4月に松山商科大学助教授、同47年4月に北海道大学経済学部助教授を経て、同55年7月に教授に昇任されました。

平成11年3月に停年により退職した後は、群馬県太田市にある関東学園大学の教授として11年にわたり教鞭をとり、数多くの優れた人材を世に送り出すことに尽力されました。

研究面の業績においては、経済理論と経済学史という大きく2つの分野に分類されます。

まず、経済理論の分野では、マクロ経済学の理論的側面の研究に加えて、ミルトン・フリードマンの「資本主義と自由」の翻訳に携わり、当時のアメリカにおける最先端の経済理論の研究を通じて、日本における当該分野の研究に大きなインパクトを与えました。さらに、昭和50年8月から1年間、フルブライト客員研究員としてイエール大学において、ノーベル経済学賞受賞者であるジェームス・トービン教授とともにマクロ経済学と貨幣理論の研究に従事し、その後の同氏の卓越した数々の経済理論研究の原点を構築されました。

次に、経済学史研究の分野では、昭和53年8月から1年間、ACLS（American Council of Learned Societies）客員研究員としてシカゴ大学に所属し、ジョージ・スティグラー教授に師事しながらイギリス古典派経済学から現代の経済学に至る経済学史の研究に従事するとともに、ロバート・ルーカス教授とともに「貨幣・銀行論」「貨幣理論史」の研究に従事したことが起点となり、数多くの顕著な業績を残されました。

また、同氏は学会活動においても活躍し、平成2年4月から同8年3月まで理論・計量経済学会（現・日本経済学会）の理事を務め、その間、平成3年度の大会運営委員長

を務めるなどして学会の発展に寄与されました。

北海道大学においては経済学史、経済学原理を講じて学部生や大学院生を教育し、その優れた学識を持って研究指導にあたり優秀な人材を育成するとともに、国際交流委員会委員として、英文カタログ等編纂の企画立案等に携わるほか、平成3年8月から同5年7月にかけて評議員として同大学の運営の枢機に参画して経済学部の管理運営に尽力されました。

以上のとおり、同氏は45年以上にわたり、北海道大学等の研究教育・運営に尽くすと同時に、日本における経済理論・経済学史研究の優れた研究者としてその発展に貢献され、その功績は誠に顕著であると認められます。

略 歴

生 年 月 日	昭和10年 5月24日
昭和37年11月	大阪大学経済学部助手
昭和42年10月	大阪大学経済学部講師
昭和45年 4月	松山商科大学助教授
昭和47年 4月	北海道大学経済学部助教授
昭和55年 7月	北海道大学経済学部教授
平成 3年 8月	北海道大学評議員
平成 5年 7月	
平成11年 3月	北海道大学停年退職
平成11年 4月	北海道大学名誉教授、関東学園大学教授
平成22年 3月	関東学園大学教授退職

(経済学研究科・経済学部)



かわはた  
**川畑 いづみ 氏**

感 想

この度、はからずも叙勲の榮譽を賜り身に余る光栄と感激いたしております。これもひとえに関係の皆様のご尽力の賜物と深く感謝

し、お礼申し上げます。

私は昭和52年北海道大学医学部附属看護学校卒業以来、定年退職までの39年間を北海道大学病院で勤務させていただきました。

振り返ってみますと、最初に配属となった循環器内科病棟での患者さんとの出会いで看護という職業の醍醐味を体感し、仕事を継続する原動力となったと感じています。また、眼科病棟では、視力障害をもった患者さんの退院後の生活支援を視野に看護を深めることができました。副看護師長として配属となった脳神経外科・神経内科病棟では、脳神経疾患に必要な看護の知識や技術を若いスタッフとともに学びあったことを思い出します。患者さんやご家族の思いに寄り添い、共に考えることの大切さを学ぶことができた病棟でした。

看護師長として初めて配属となった放射線部ナースセンターでは、新病院移転準備中でもあり、医師や診療放射線技師の皆様と夢を語り将来設計に参加できたことは大変貴重な体験となりました。

平成11年に看護部に配属となり副看護部長として9年間、看護部長として8年間務めさせていただきました。看護部長としての8年間は、病院経営の安定、高度先進医療を担う専門性の高い看護職の育成、チーム医療推進を目標に看護部の組織づくりに取り組んでまいりました。

平成19年に7対1看護診療報酬取得後は、看護師の採用と定着が絶対的使命となりました。特に、平成19年度採用者198名が安心して成長できるように看護部全体が一丸となって頑張ったことは思い出深い出来事です。また、北海道大学大学院保健科学研究院看護学教員の皆様と共同で、全看護職員のカリヤ支援を目的とする看護部カリヤ支援室設置や北海道大学病院将来ビジョンにおける看護師のあるべき姿について検討を重ね「看護職カリヤ支援システムプラン」として4つのプログラム開発・評価部門（新人教育、指導看護師、エキスパート看護師、人材交流）を立ち上げ、最先端医療を担う看護実践力に優れた看護師養成、看護職の多様なカリヤパスの可視化に取り組みました。少しずつではありますが教育体制が整ってきたと感じております。

今後も北海道大学病院は診療・教育・研究において最先端を走り続けることでしょう。その一翼を担うであろう若い看護師たちが医療の進歩・社会情勢の変化を柔軟に受け止め、チーム医療のキーパーソンとして看護を発展していくくださることを期待しております。

私の39年の看護師としての年月は、よき先輩・同僚・後輩に恵まれ、様々な方にご支援していただいたおかげと感謝してもし尽くせません。今後はこの榮譽に恥じることはないよう過ごしてまいりたいと思います。

最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

功績等

川畑いづみ氏は、昭和30年5月12日に北海道岩見沢市に生まれ、同52年3月に北海道大学医学部附属看護学校卒業後、同年4月北海道大学医学部附属病院に就職し、平成3年副看護婦長、同6年看護婦長、同11年副看護部長、同20年看護部長を歴任、同28年3月に北海道大学病院を定年にて退職するまで勤務されました。

同氏は当初、循環器内科病棟に配属となり、患者の生活の質の向上を目指した看護を実践されました。その後、副看護婦長、看護婦長を歴任、患者の安全・安楽に視点を置き、看護の質向上と標準化に取り組みました。

副看護部長昇任後は、業務を2年、教育、総務をそれぞれ3年間担当し、看護記録監査システムや患者看護支援システムの構築、北海道大学病院看護部版カリヤ開発ラダーに応じた教育プログラムの作成等、現在の本院看護部の基盤を整備しました。また、患者・家族の意思を看護計



画に反映させる「患者参加型看護」を推進、学会発表「患者参加型看護過程に関する実証的研究－患者および看護師への影響－」では「日本看護研究学会北海道地方会研究奨励賞」を受賞されました。また、発刊に尽力された「患者参加型看護－患者がケアを評価・修正する新しい看護の形－」は、本院のみならず、全国の病院にとって貴重な資料となっています。この間、同氏は看護学修士を取得、また海外視察に複数回参加される等、看護管理者としての資質向上にも努められました。

その後、第6代看護部長に昇任、認定看護管理者を取得されました。入退院に関わる業務の一元化を目的に「入退院センター」を設立し、センター長として多職種協働による患者サービスと業務効率化を推進されました。また看護職のワークライフバランスの充実に向け、多様な勤務形態の導入、病後児保育室の開設等、体制整備に尽力されました。さらに看護職のキャリア開発を推進すべく、キャリア支援室の設置や、保健科学研究所と共同での「看護職キャリアシステムプラン開発・評価組織体制」構築、院内認定看護師養成プログラムの運営にも取り組まれ、高い看護実践力を持つ看護師を養成するとともに、看護職の多様なキャリアパスを可視化しました。この間も学会発表や論文投稿を積極的に行い、本院のみならず、全国の病院に大き

な影響を与えました。

同氏は社会活動も精力的に行い、北海道看護協会においては副協会長等を歴任されました。また、日本看護研究学会評議員及び北海道地方会役員として看護研究活動に、北海道医療大学看護福祉学部非常勤講師、北海道大学医学部保健学科臨床指導教授として、看護教育にも多大な貢献をされました。

同氏の教えを受けた多くの優秀な看護管理者が、北海道大学病院はもちろん、道内各地の病院で活躍しており、これらの功績は誠に顕著であると認められます。

#### 略 歴

生年月日	昭和30年5月12日
昭和52年4月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成3年11月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成6年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
平成11年4月	北海道大学病院看護部副看護部長
平成20年4月	北海道大学病院看護部長
平成28年3月	北海道大学定年退職
平成28年6月	社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 看護部長

(北海道大学病院)

## 喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが「平成28年北海道功労賞」を受賞

喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー／人獣共通感染症リサーチセンター統括・特別招へい教授が、インフルエンザウイルスの生態解明と疾病対策に優れた業績を挙げ、北海道における獣医学と医学の知識と技術の普及啓発へ多大な貢献をされていることに対して「平成28年北海道功労賞」を受賞

しました。

この賞は、昭和44年に北海道開発功労賞として創設され、北海道の経済、社会、文化等の発展に貢献し、その功労が特に顕著な方に贈られるもので、知事表彰として最高位にあたるものです。

10月14日（金）に行われた贈呈式で

は、山谷吉宏副知事から表彰状が手渡され、喜田ユニバーシティプロフェッサーから「北海道で、北海道大学で良き同僚と学生に恵まれたおかげであり、今後も研究と人材育成に努めていきたい」との言葉がありました。

(人獣共通感染症リサーチセンター)



表彰状の授与



受賞後の挨拶

# 独立行政法人日本学術振興会 平成28年度科研費審査委員の表彰に本学から11名

独立行政法人日本学術振興会より、9月30日（金）に平成28年度科研費審査委員の表彰者が公表されました。今年度は、科学研究費助成事業（科研費）の書面審査において有意義な審査

意見を付した審査委員として、対象者約5,700名の中から268名が表彰されています。

本学からは、平成20年度に本表彰制度が設けられてから、最も多い11名の

先生方が表彰され、所属部局等の長より表彰状が授与されました。

（研究推進部研究振興企画課）

## 【表彰者】

所 属	氏 名
理学研究院	石 森 浩一郎 教 授
理学研究院	沢 田 健 准教授
歯学研究科	横 山 敦 郎 教 授
歯学研究科	網 塚 憲 生 教 授
遺伝子病制御研究所	藤 田 恭 之 教 授
遺伝子病制御研究所	和 田 はるか 講 師

所 属	氏 名
工学研究院	森 田 隆 二 教 授
工学研究院	森 傑 教 授
工学研究院	大 野 宗 一 准教授
電子科学研究所	根 本 知 己 教 授
低温科学研究所	隅 田 明 洋 准教授



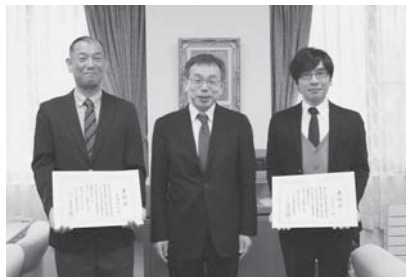
（左から）理学研究院 石森教授、沢田准教授



（左から）歯学研究科 横山教授、網塚教授



（左から）遺伝子病制御研究所 藤田教授、村上正晃所長、和田講師



（左から）工学研究院 森田教授、名和豊春研究院長、大野准教授



工学研究院 森教授（左）、名和研究院長



電子科学研究所 根本教授（左）、西井準治所長



低温科学研究所 隅田准教授（左）、江淵直人所長



## 第12回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催

本学と九州大学は、両大学主催による「九州大学・北海道大学合同活動報告会」を11月5日（土）に東京都千代田区の都市センターホテルで開催し、一般参加者及び両大学OB・OGを含め109名の参加がありました。

この報告会は、日本の北と南に位置し、先端的な教育研究活動を展開している両大学の活動を広く社会に理解していただくことを目的として毎年開催しているもので、12回目となる今回は、「九大・北大から世界へ 大学発ベンチャーの挑戦」と題して、両大学におけるベンチャー創出推進のための取組みを紹介しました。

報告会は、九州大学の久保千春総長及び本学の山口佳三総長による挨拶・大学紹介で始まり、続いて伊藤洋一文部科学省科学技術・学術政策局長よりご挨拶をいただきました。

引き続き、本学の牧内勝哉特任教授、吉田靖弘教授、九州大学の山内恒グループリーダー、安達千波矢主幹教授の4名による事例発表が行われました。

報告会の最後には「大学発ベンチャー

の成長に向けて」と題したパネルディスカッションが行われました。九州大学の熊野正樹准教授をコーディネーターとして、先に発表を行った4名に、北大発ベンチャーのライラックファーマ株式会社の須佐太樹氏、九州地域の大学発ベンチャーを支援するQBキャピタル合同会社の坂本 剛氏

を加えた6名をパネリストとして、講演内容を中心にディスカッションが行われ、盛会のうちに終了しました。

また、報告会終了後、交流会を開催し、両大学の盛んな交流を図りました。

（研究推進部研究振興企画課）



挨拶をする山口総長



講演中の牧内特任教授



講演中の吉田教授



パネルディスカッションの様子

## イチョウ並木の一般開放を実施

10月30日（日）、観光客や市民の皆様が安全に黄葉を鑑賞できるように、北13条通りの車両通行を規制して「イチョウ並木の一般開放」を実施しました。

天気は薄曇りでしたが、前日までの強風がおさまり、約5,700名もの方々が黄金色に輝くイチョウ並木を背景に写真撮影するなど、秋の一日を満喫し

ていました。

また、10月29日（土）・30日（日）には、北大元気プロジェクト採択団体が、イチョウ並木のライトアップなどの「北大金葉祭」を実施し、黄葉の鑑賞を盛り上げました。

（総務企画部広報課）



北13条通りのイチョウ並木

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

## 北大フロンティア基金情報

基金累計額（10月31日現在）

19,640件 3,367,962,196円

## 10月のご寄附状況

法人等2社、個人85名の方々から22,337,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社木村工務店、サッポロホールディングス株式会社

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	秋田 弘俊	浅野 賢二	蘆田 清美	石橋 陽子	入澤 秀次	岩下 明裕	上田 峻弘
太田 喜雄	緒形 良子	岡庭 直樹	小内 透	小原 大和	婦山 雅秀	加藤 元	金川 眞行
河本 充司	工藤 峰生	熊谷 健一	小菅 充	今野 英一	齋藤 彰	斉藤 久	坂爪 富子
桜井 謙介	三升畑元基	嶋田 啓一	清水 智之	下川 利喜	瀬名波栄潤	高橋 厚一	玉城 勉
土家 琢磨	寺澤 睦	寺下 貴美	豊田 威信	鳴海 晃	西村 功	橋野 聡	福田 文治
船津 康次	逸見 勝亮	前西 繁成	松浦 伸郎	松本 明郎	丸田 英資	水子 龍彦	三田 勝久
三橋 公美	村上 達哉	森山龍太郎	山内 隆嗣	山田 一範	山田 哲男	山田 禎子	山本 裕之
吉田 広志	力示 育実	渡辺堅太郎					

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

株式会社木村工務店、サッポロホールディングス株式会社

#### （個人）

秋田 弘俊、石橋 陽子、岡庭 直樹、加藤 元、坂爪 富子、高橋 厚一、寺下 貴美、橋野 聡、船津 康次、前西 繁成、松本 明郎、三橋 公美、渡辺堅太郎



## 感謝状の贈呈



中川 洋 様 (平成28年10月8日)



東郷重興 様 (平成28年10月26日)

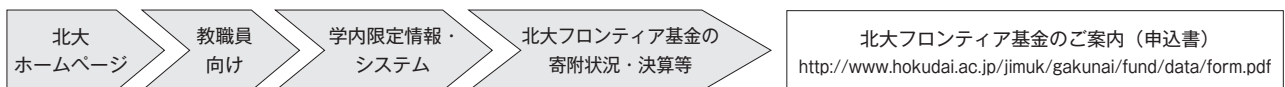


アドバンテック東洋株式会社 様 (平成28年10月28日)

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

## ④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

## 平成28年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催

10月26日（水），工学部フロンティア応用科学研究棟セミナー室1において，総務企画部情報企画課主催の「平成28年度北海道大学情報セキュリティセミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは南 弘征サイバーセキュリティセンター長からの挨拶の後，トレンドマイクロ株式会社上級セキュリティエバンジェリストの染谷征良氏より「国内法人組織を狙う標的型サイバー攻撃の脅威～セキュリ

ティに関する有益な情報や注意点，対策手法等～」と題して，昨今の標的型サイバー攻撃（標的型メール等）の手法と効果的な対策等について，実例を交えながら解説が行われました。

本セミナーには，テレビ会議システムによる参加も含め100名近い教職員及び学生が参加し，熱心にメモを取りながら聴講する姿も見受けられ，また，質疑応答の場では予定していた時間を超えるほどの質問が寄せられるな

ど，情報セキュリティへの関心の高さが伝わってきました。

総務企画部情報企画課では今後もサイバーセキュリティセンターと共に情報セキュリティに関するセミナーを開催し，本学の教職員及び学生の情報セキュリティに関する意識を高めていきます。

（総務企画部情報企画課）



講演をする染谷氏



会場の様子

## 「北海道大学進学相談会」を名古屋と大阪で開催

本学単独主催の大学進学希望者向け「北海道大学進学相談会」を8月の東京開催に続いて，10月8日（土）に名古屋で，翌9日（日）に大阪で開催しました。

各会場では山口佳三総長，新田孝彦理事・副学長をはじめ，各学部やアドミッションセンターの教職員，在学生等，合わせて約60名が高校生や保護者等への説明・相談に当たりました。

全体説明では，冒頭で山口総長による挨拶があり，引き続き新田理事・副学長が本学の魅力について説明を行いました。その後は，喜多村昇アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明，山口淳二新渡戸カレッジ副校長による新渡戸カレッジについての説明等を行いました。また，それと並行して，全12学部の教職員・学生による相談ブース等において



全体説明で挨拶する山口総長



本学の魅力について説明する新田理事・副学長



総長・副学長と話そうコーナーで対応する山口総長と新田理事・副学長



学部相談ブース



個別相談対応を行い、多くの高校生・保護者等が訪れていました。

来場者数は、名古屋会場が275名、大阪会場が638名でした。8月20日（土）に開催した東京会場での来場者数1,015名を加えると、今年度は3会場で1,928名となりました。

（アドミッションセンター）



名古屋会場の様子



大阪会場の様子

## 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙行

本年10月入学の「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」の入学式を、10月3日（月）に学術交流会館において行いました。

HUSTEPは、本学の協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施する1年または6か月間のプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部在籍している留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する教育を行う1年または6か月間の研修

コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生、工学部進学前の日韓理工系プログラムの留学生、及び現代日本学プログラム課程進学前の留学生に対して開設されている6か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのは、HUSTEPに73名、日研コースに45名、日本語研修コースに32名の合計150名です。

入学式では、最初に来賓の方々や教員の紹介が行われ、その後、各プログラム担当教員よりプログラムの紹介がありました。学生は起立し、来賓の

方々や教員、学生に向かって一礼し、温かい拍手で迎えられました。その後、山口佳三総長からの祝辞、HUSTEP1年コースのバグラー・イザベラさんによる留学生代表スピーチが続きました。留学生代表スピーチでは、バグラーさんが留学への意気込みや抱負について楽しく語りました。

最後は、学生たちの緊張もほぐれ、和やかな雰囲気の中、笑顔いっぱい集合写真の撮影を行いました。

（国際部国際教務課）



山口総長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）1年コース留学生



北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）半年コース留学生



日本語・日本文化研修コース（日研コース）留学生



現代日本学プログラム留学生（日本語研修コース）



国費留学生・日韓理工系プログラム留学生（日本語研修コース）

# 北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙



全員での記念撮影



山口総長から給付証書授与

北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を、10月18日（火）に国際連携機構大講義室で行いました。

授与式には山口佳三総長、上田一郎国際連携機構長をはじめ、徳久治彦理事・事務局長、関係研究科等の長、指導教員など関係者が出席し、北海道大学総長奨励金被給付留学生には給付証書、北海道大学私費外国人留学生特待プログラムに採用された留学生には採用証書が、山口総長から授与されました。留学生は緊張しながらも、誇らしげに証書を受け取っていました。

留学生一人ひとりに証書が手渡された後、山口総長から祝辞が述べられ、

「あとに続く留学生の目標となり、これからの地球の将来を担うような成果を出して行ってほしい。また、本学で勉強に励み、健康にも十分注意して、素晴らしい学生生活を過ごしてほしい」との激励の言葉を、留学生は熱心に聞き入っていました。

北海道大学総長奨励金は、留学生の質的向上及び受入れの拡充を図ることを目的として平成18年度に開始された制度です。修士課程、博士後期課程（医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、専門職学位課程等に、協定校等から推薦された者を選考の上、受入れを行っています。

北海道大学私費外国人留学生特待プ

ログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。博士後期課程（医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程と博士後期課程（獣医学研究科については博士課程）に入学する私費外国人留学生を対象としており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

（国際部国際教務課）



## 平成28年度秋季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催

10月25日（火）、北部食堂において、国際連携機構主催で、平成28年4月以降新たに本学に入學した留学生を対象としたウェルカムパーティーを開催しました。

この行事は留学生数が増加する中、昨年度まで2月に開催されていた外国人留学生歓迎・送別懇談会を分散開催することとしたもので、全学から310名の出席がありました。

パーティーは、上田一郎国際連携機構長の挨拶に始まり、ラフェイ・ミ

シェル国際連携機構留学生生活支援室長の乾杯で開会しました。新入生を代表して、獣医学研究科に入學したトーコー・フラヴ・カパラムラさん（マラウイ出身）から、獣医学研究科において学業を修めた後にはマラウイに帰り、獣医学を教える立場になり、また、研究者として人獣共通感染症などに関わる仕事をし、究極の目標としてマラウイの獣医科大学の教授になりたいとの今後の抱負が述べられました。

なお、このパーティーでは、学内か

ら応募のあった先輩留学生及び新渡戸カレッジ生からなる企画委員の手で事前準備がなされ、当日の司会進行と出し物が行われました。

出し物として、来日したばかりの留学生に対して本学にまつわる設問を交えたクイズを行い、盛り上がりました。参加した新入留学生は、事前募集に応じて参加した新渡戸カレッジ生とともに交流の一時を過ごしました。

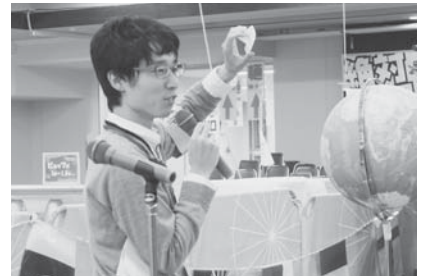
（国際部国際教務課）



上田国際連携機構長の挨拶



トーコーさんの挨拶



司会の横山修平さん（工学部4年）



クイズゲームの様子



歓談する参加者



企画委員の記念撮影

## インターナショナルハウス等で消防避難訓練を実施

国際部では、10月16日（日）にインターナショナルハウス北8条東、インターナショナルハウス北8条、インターナショナルハウス北23条、外国人研究者等宿泊施設の4か所で、消防避難訓練を実施しました。

当日は、穏やかな天候の下、居住者160名が参加し、宿舎に配置された

チューターと管理人が連携して初期消火から声かけ、119番通報、避難誘導へと続く火災発生時の手順を確認しました。

講話では、火災発生時の通報及び避難手順に加え、地震の際は慌てて建物の外に飛び出さないなどの注意点についても日本語と英語で説明がありま

した。

また、訓練に引き続き、消火器を使った模擬消火体験を実施し、多くの参加者が消火器を手にとって使用方法を学びました。

（国際部国際教務課）



非常口から避難する居住者



消火器の説明を聞く参加者



消火器を用いた模擬消火体験

## 秋のガレージセールを開催

10月5日（水）、国際連携機構ロビー及び中庭において、秋のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の妻と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要な物資を提供しています。

当日は晴天に恵まれ、開場前から150名以上の列ができ、来場者は開場とともに炊飯器、アイロンといった小型家電や、食器や台所用品といった日用品を手にとっていました。来場者数は約250名でした。近年は家族を帯同した留学生等の数が増えていることから、寝具や子供服の人气が高まっています。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供を依頼しています。皆様のご協力をお願いいたします。

（国際部国際教務課）



1番人気の小型家電コーナー



盛況だった寝具コーナー



賑わう子供服コーナー



フリーコーナー

## 留学生を対象に市民防災センター・旭山記念公園バスツアーを開催

国際連携機構は留学生とその家族を対象として、10月22日（土）に公益財団法人札幌国際プラザと共催で「秋の防災バスツアー」を開催しました。44名の外国人と31名の日本人が参加し、2台のバスに乗って札幌市民防災センターを訪れました。3D映像など最新の技術を駆使した臨場感溢れる各体験コーナーで、実際に災害が起きた時にどうすべきかを体験しながら学びました。画面に映し出されたてんぷら油か

らの火災を、消火器を使って消火する体験コーナーでは、参加者から具体的な消火方法についての質問があがるなど、楽しみながらも真剣な様子で取り組んでいました。

昼食後は、リフレサッポロ体育室にて空手を基礎とした護身術を体験しました。講師のアクロバティックなデモンストレーションに拍手や歓声が起こり、最低限の力で自分の身を守るポイントについて実践を交えて学びま

した。

最後に、旭山記念公園を訪れ、小雨ながらも美しい紅葉と札幌の景色を一望しながら、写真を撮るなど思い思いの時間を過ごしました。

防災についての知識のみでなく、日本人参加者との交流を通して日本で生活をするヒントを得ることもできたようです。

（国際連携機構）



消火器の使い方を学ぶ消火体験コーナー



3D映像と風速30mの風を体験できる暴風体験コーナー



護身術体験で講師を相手に実技を体験する留学生



紅葉の美しい旭山記念公園にて



## 北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画を開催

北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画を10月18日（火）・19日（水）に学术交流会館において開催しました。

本協議会は、参加校である道内49の大学・短期大学・高等専門学校が連携・協同して、FD、SD及びTAD\*の推進に係る情報の交換・共有やプログラムの共同開発を目的として、平成21年10月に設立され、北海道大学が代表幹事校を務めています。

開催にあたり、新田孝彦理事・副学長から挨拶が行われた後、総会の議事が行われ、引き続き、共同企画が行われました。

共同企画では、はじめに、公益財団法人大学コンソーシアム京都の栗田

洋副事務局長による「大学コンソーシアム京都におけるFD・SDの組織的な取り組み」と題した講演が行われ、出席した関係者は熱心に聞き入っていました。また、講演後には、活発な質疑応答がなされました。

次いで、FDやSDに関する諸問題についてテーマ別セッションが行われました。テーマ別セッションでは、FDやSDに関してそれぞれの大学等が抱えている現状や課題について、3つのテーマ（「教員個々の授業改善（授業参観、相互評価、授業アンケートなど）」「教職員のマネジメント能力等の育成」「効果的なSDのための上司の役割・あり方」）に分かれて事例等を報告し、討議が行われました。

2日目には、今年度の新たな試みとして、4つのテーマ（「アクティブ・ラーニング」「IR（Institutional Research）」「FD全般」「SD全般」）について、発表者を公募し、ラウンドテーブルを実施しました。ラウンドテーブルでは、各テーマに分かれ、発表者から実践報告等が行われ、参加者と情報共有・意見交換を行いました。参加者にとってFDやSDについて理解を深める良い機会となりました。

\*TAD(Teaching Assistant Development)

ティーチング・アシスタント(TA)の教育能力向上のための組織的取り組み。

(学務部学務企画課)



講演を行う栗田副事務局長



ラウンドテーブルの様子

## 「製薬企業3社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催

産学・地域協働推進機構は、10月21日（金）に医学部臨床講義棟第3講堂において、北海道大学病院臨床研究開発センター及び大学力強化推進本部医療・創薬科学プラットフォームと共同で、「製薬企業3社合同 創薬研究助成・共同研究公募事業説明会」を開催しました。

製薬企業が実施している創薬研究助成・共同研究公募事業の内容について、EAファーマ株式会社、塩野義製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社の各担当者から説明いただいた後、名

刺交換会を実施しました。

説明会には約30名の来場者があり、説明会終了後に引き続き開催された名刺交換会でも活発な意見交換がなされ、大変盛況な会となりました。

産学・地域協働推進機構では、今後も創薬研究助成・共同研究公募事業に関する情報提供の機会を設けていきたいと思っております。興味のある方は積極的にご参加ください。

(産学・地域協働推進機構)



会場の様子

## キッズフォレスト2016「科学の森」に参加

創成研究機構では、本学が研究活動を社会・国民に対してわかりやすく説明する「国民との科学・技術対話」推進事業「ACADEMIC FANTASISTA」を行っており、2016年度は20名の研究者たちが、それぞれの研究内容、研究そのものの意義を札幌市内の高校生を中心に出張講義や公開講義で伝える活動をしています。

この事業の一環として2名の教授が、10月1日（土）・2日（日）にサッポロファクトリーで開催されたキッズフォレスト2016「科学の森」（北海道新聞社主催）に参加しました。

1日目は、理学研究院・創成研究機構の冨本尚義教授がアトリウムステージにて「『はやぶさ』がいった小惑星『イトカワ』のみみつ」と題して講演し、イトカワサンプルの分析結果や「はやぶさ2」のミッションについて

解説しました。また午後には、内田洋行「ユビキタス協創広場U-cala」にて事前募集で抽選に当選した小学3～6年生の親子20組を対象に「惑星・小惑星を見に行こう 2016年太陽系の旅」と題して講演し、太陽系の一つひとつの惑星やイトカワなどの小惑星、彗星について解説しました。冨本教授の案内で、宇宙旅行に出発した小学生は目を輝かせて話に聞き入っており、宇宙の冒険を楽しんでいました。

2日目は、量子集積エレクトロニクス研究センターの葛西誠也教授が、内田洋行「ユビキタス協創広場U-cala」にて事前募集で抽選に当選した小学3～6年生の親子20組を対象に「ボタンもタッチパネルもいらない！ ひとの動きや思いを機械に伝えるテクノロジー」と題して午前と午後の2回にわたり講演しました。講演の中で、参加

者には「自分の手を動かすと、ロボットの手がその通りに動く」魔法のような先端技術を実際に体験していただきました。仕組みを学びながら、高度な機械を思い通りに動かす未来の技術の解説に小学生は熱心に耳を傾け、実際に装置を身に着け、からだの中を流れる電気信号を取り出して機械を操作するという体験に目を輝かせていました。

公的な研究資金を受ける研究者たちは、その責任として研究成果や研究の必要性を国民に伝えていく必要があります。創成研究機構研究支援室は、ACADEMIC FANTASISTA事業内外に関わらず、今後も市民の皆様、学生の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。

（創成研究機構）



冨本教授による講演



小学生からの質問に丁寧に答える冨本教授



太陽系の旅へ出発



葛西教授による講演



会場の様子



装置の説明をする葛西教授

## 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (STSフォーラム)に参加



「ノーベル賞受賞者との対話」集合写真

10月1日(土)にグランドプリンスホテル京都にて開催されたSTS *forum* Future Leaders' Program「ノーベル賞受賞者との対話(Dialogue between Future Leaders and Nobel Laureates)」に、本学を代表して電子科学研究所のMarko Jusupテニュアトラック助教、先端生命科学研究院のDaniel Rudolf Kingテニュアトラック助教が参加しました。また、10月2日(日)から4日(火)に国立京都国際会館で開催されたSTSフォーラム第13回年次総会(13th Annual Meeting of Science and Technology in Society *forum*)には、テニュアトラック教員の2名に加え、川端和重理事・副学長が出席しました。

「ノーベル賞受賞者との対話」には9名のノーベル賞受賞者と国内外の98

名の若手研究者が参加しました。また、STSフォーラム年次総会には約100カ国の国・地域・国際機関から約1,200名の科学技術、政治、ビジネス、メディアの各界の世界的なリーダーが一堂に集まりました。若手研究者にとっては、未来に貢献する科学技術という観点から議論し、国内外のネットワークを広げる絶好の機会となりました。特に、「ノーベル賞受賞者との対話」では示唆に富んだ様々な話を聞くことができました。

Jusupテニュアトラック助教からは、「Richard J. Roberts先生(1993年ノーベル医学・生理学賞受賞)から、「遺伝子組み換え技術を世界の食糧供給に活用するために国家のリーダーにも精力的に会見して技術の理解

を深めてもらう」との話を聞き、その努力に感銘を受けました」との感想が寄せられました。また、Kingテニュアトラック助教からは、「ノーベル賞受賞者の方々は世界が直面する様々な問題について議論することに非常に熱心で、先生方の意見を聞いたり、将来に向けての我々の研究の在り方についてアドバイスをいただいたりと、大変興味深い内容でした。ノーベル賞受賞者といえども研究には様々な苦勞があり、今の自分たちが感じていることと同じだと思いました」との感想が寄せられました。

(人材育成本部)



## 人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPで若手外国人研究者 (DC, PD) 向けLunch Talk (Way of Tea) を開催

人材育成本部国際人材育成プログラムI-HoPでは、若手外国人研究者 (DC, PD) 向けにPhD Lunch Talkセミナーを開催していますが、11月4日 (金) にクラーク会館において、茶道を体験するLunch Talk (Way of Tea) を開催しました。

本セミナーは、新渡戸カレッジフェローの石川裕一氏の全面的なご支援・ご協力により実現したもので、本学に学ぶ若手外国人研究者に対し、本物の日本文化に触れ、その神髄を理解してもらうという目的のために、茶道裏千家正教授の山田宗代先生を講師に迎

え、本格的な道具、お菓子、懐石弁当などを供して行いました。

日本人同士の会話は、共有する情報量の多い人同士の行う、いわゆる「ハイコンテキスト」なコミュニケーションになりがちで、これが外国人との会話においては思い通りの意図が通じず、しばしば障害となります。そこで、ハイコンテキストなコミュニケーションの極みともいえる茶道において、短冊やお花、道具、お菓子、着物の柄などすべてにメッセージが込められていることを、山田先生のお点前や解説と、文学研究科国際交流室のミ

シェル・ラフェイ准教授の通訳により、実際に体験してもらいました。

このように茶道における文化的背景や歴史、所作や道具における美学やおもてなしの心の伝え方、といったハイコンテキストな情報を個別に解説し体験してもらったことで、参加者の日本文化に対する理解を大いに深めることができ、会話の表面には出てこない背景を共有する文化を学ぶことの重要性を理解してもらうことができました。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

(人材育成本部)



山田先生のお点前や解説から熱心に学ぶ参加者

## ■ 部局ニュース

# 総合化学院と国立台湾大学工学院がダブル・ディグリー・プログラム及びコチュテル・プログラムの覚書を締結

10月20日（木）、総合化学院と国立台湾大学工学院との間で、ダブル・ディグリー・プログラム（DDP）及びコチュテル・プログラム（CP）覚書調印式を、本学院の大熊毅学院長と国立台湾大学工学院のJia-Yish Yen 学院長ほか両校の関係者12名列席のもと、国立台湾大学キャンパスで行いました。2009年5月にDDP、昨年12月にCPの制度を本学で導入して以来、本学では初めての両プログラム覚書同時締結となります。

国立台湾大学は1928年に設立された台北帝国大学を前身に持ち、1945年に現在の名称に変更されました。3万人を超える学生を有する総合大学であり、

世界的にも有力な大学の一つです。学部生数と大学院生数に大きな差がなく、教育と研究のバランスが取れている点に特徴があります。本学と国立台湾大学との交流は、1998年の法学分野における部局間交流協定によって進展し、その後、教員間の研究交流、学生の相互派遣を活発化させてきました。その過程において、国立台湾大学から全学レベルでの交流を促進したいとの申し出があり、2005年3月に大学間交流協定を締結しました。

本学院と国立台湾大学工学院の間では、短期の学生派遣・受入れによる交流に加えて、リーディングプログラム、ラーニング・サテライト、Hokkaido

サマー・インスティテュート等のプログラムを通じて、教育研究における連携を深めてきました。成果の一部は、本学院の佐藤敏文副学院長が先導する高分子化学研究等の分野に現れ、Advanced Functional Materials等インパクトファクターの高い学術雑誌に共著論文を10報以上掲載するに至っており、これらの交流実績のもとに今回のプログラムが実現しました。

本覚書の締結により、物質化学、分子化学、生物化学等の総合化学分野における、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（総合化学院）



署名後の大熊学院長（右）とYen学院長



関係者記念撮影

## 農学研究院で「第2回国際食資源学フォーラムー国際食資源問題に立ち向かう人材育成ー」を開催

10月5日（水）・6日（木）の2日間、「第2回国際食資源学フォーラムー国際食資源問題に立ち向かう人材育成ー（2nd International Forum on Global Food Resources-New Models for Research, Education and Human Resource Development-）」を、本学大学院国際食資源学院設置準備委員会

と国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションの共催により開催しました。

本フォーラムは、平成29年4月設置の国際食資源学院における新しい教育理念等の共有を目的としたもので、第2回となる今回は、地球規模で拡大する食・水・土資源と社会の課題解決に



フォーラムの様子

立ち向かう人材育成のあり方をテーマに、「国際食資源学院」の3つの教育領域（Production, Environment, Governance）ごとにセッションを設け、海外から10名、本学から9名の講演を行いました。また、カリフォルニア大学デービス校のシャロン・シュー

メーカー氏ら7名の著名な研究者を招き、基調講演を行いました。

5日（水）の夜にはNight Sessionを設け、国際食資源学院のカリキュラムの特徴である「ワンダーフォーゲル実習」（フィールドワーク）や、関係教員による共同研究のあり方などについ

て意見交換を行いました。

2日間にわたるフォーラムは多くの温かい反響をいただきながら、盛会裡に終了しました。

（農学院・農学研究院・農学部）



Night Sessionでの意見交換



全体集合写真

## メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「旅は東アジアを変えるのか？」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成28年度公開講座「旅は東アジアを変えるのか？一日中韓から見る現代の観光文化」を、10月6日～27日の毎週木曜日、全4回にわたり実施しました。

本講座では、近年活発な東アジア圏の観光について、日中韓3ヶ国の研究

者4名が講義しました。それぞれのフィールドを背景に、時代も地域も多様な事例を取り上げながら、多角的に考察しました。

47名の受講者は、毎回の講義に非常に熱心に出席していました。活発な質疑応答の様子からは、受講者の学びへの意欲や関心の高さがうかがえま

した。

講座の最終日には、担当講師から受講者一人ひとりへ修了証書が手渡され、本講座は盛況のうちに終了しました。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



授業風景



修了証書授与



# 北方生物圏フィールド科学センターで 「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」 を開催

7月24日（日）～10月1日（土）に、苫小牧研究林、札幌キャンパス、忍路臨海実験所、白尻水産実験所、函館市国際水産・海洋総合研究センター及び七飯淡水実験所において、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました。

本事業は、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象として、科学研究費助成事業の研究成果をもとに、最先端の研究成果について直に見て、聞いて、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムとして、独立行政法人日本学術振興会からの支援を受けて実施しています。

以下に今回実施された7件のプログラムを紹介します。

(北方生物圏フィールド科学センター)

## オタマジャクシはすごい～実験でわかる動物たちの生き残り戦略～

7月24日（日）に「オタマジャクシはすごい～実験でわかる動物たちの生き残り戦略～」を開催しました。これは「基盤研究（B）：同所的種内変異が生み出す相互作用と群集レベルの効果」（研究代表者：岸田 治准教授）による研究成果をもとに、北海道の両生類の驚くべき生態とその研究方法について知ってもらうことを目的とし企画しました。今回は小学5・6年生と中学生を対象に苫小牧研究林で実施しました。

札幌市、千歳市、苫小牧市の小・中

学校から18名の児童・生徒が参加しました。午前中に苫小牧研究林の玄関前で開講式を行った後、バスに乗って研究林内の池に向かいました。池にはエゾサンショウウオの幼生が多数生息しています。子供たちは2人1組になり、普段なかなか目にするのしないエゾサンショウウオの幼生をタモ網で夢中になって採集していました。その後、研究林庁舎に戻り実験室を見学した後、昼食をとりました。

午後は研究体験プログラムです。はじめに、外敵がいる時の動物の行動を

調べました。まず、ヘビ嫌いなスタッフの頭にヘビを乗せる実験をしました。ヘビを乗せられる前は元気だったスタッフは、ヘビが乗った後は硬直して動きません。これを見た子供たちは大喜びでした。次に両生類の幼生で実験しました。外敵のヤゴがいる水槽とヤゴがいない水槽で動いているオタマジャクシの割合を調べたところ、オタマジャクシは外敵がいると動かなくなることがわかりました。

続いて、オタマジャクシの形に注目したプログラムを行いました。エゾア



林内の池でエゾサンショウウオを採集



ヘビを乗せられ硬直するスタッフ



触ってオタマジャクシの形を当てる



オタマジャクシの形を測る

カガエルのオタマジャクシは外敵がいると頭を膨らませます。その形の違いを体感してもらうために、膨らんでいるオタマジャクシと膨らんでいないオタマジャクシの両方を用意し、目をつぶった子供の手におタマジャクシをのせ、手の感触だけでどちらのおタマジャクシかをあてるゲームをしました。見事子供たちは全員正解しました。どうして形が違うのか、子供たちはこの疑問に取り組むべく、自ら仮説

を立て、実験により仮説を検証しました。その後は、ノギスを使ってオタマジャクシの形態計測をし、形の違いをグラフ上に描き、形態をグラフ化しました。学術論文のグラフも見せ、子供たちのグラフと研究者のグラフが本質的に同じであることを説明しました。

最後に、関連する研究の成果を中心としたミニ講義を行い、1日のプログラムを終了しました。内容が盛りだくさんで、講義の時間には疲れて眠って

しまった子供もいましたが、最後まで目を輝かせながら参加してくれた子供が何人もいたのが印象的でした。

プログラム準備や運営は大変でしたが、スタッフは子供たちとの触れ合いを通じて自分たちの研究活動がどういったものかを知ることができました。本プログラムを実施するにあたり、研究林の教職員並びに環境科学院の大学院生には惜しみない協力をいただきました。心より感謝いたします。

### 体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”

7月30日（土）に「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を開催しました。これは、「基盤研究（B）：ユーラシア・北米のハスカップ野生遺伝資源の多様性解析と評価に関する研究」（研究代表者：星野洋一郎准教授）による成果をもとに、大学で行っている研究に触れてもらう企画です。北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場で実施し、20名の中学生が参加しました。

開会式の後、北大農場のフィールドに出て、ハスカップ、ブルーベリー、シーベリー、カシス（ブラックカラ

ント）、レッドカラント、グズベリー、ラズベリーなど様々なベリーを観察しながら、それぞれの違いや分類について学びました。

その後、パチュニアをモデルに植物の育種の基礎となる交配実験を行いました。雄しべと雌しべの見分け方、花粉の採取方法、柱頭への花粉の付け方、袋掛けについて実習しました。

午後は、「交配袋を作ろう！」「果実の糖度とpHを測ろう！」「生きた花粉が伸びる様子をとらえよう！」「シーベリーのタネを採ろう！」の4つの実験をローテーションで行いまし

た。様々な種類の実験の楽しさを体感できたと思います。

実験終了後に、フリートークの時間を持ちました。スタッフ手作りのベリーソース（ハスカップ、カシス、ラズベリー、シーベリー、レッドカラントなど）を添えてアイスクリームを楽しみながら、大学院生らと1日を振り返りました。

最後に「未来博士号」の授与式を行い、閉会しました。参加者の皆様、ありがとうございました。また、このイベントを支えてくださいましたスタッフの皆様へ深く感謝いたします。



北大農場で様々なベリーを観察



植物の交配に挑戦



シーベリーのタネ採り

海の森の調査隊～おしよろの“こんぶ”の将来は!?～

7月30日(土)に、「基盤研究(B):北太平洋西部沿岸におけるコンブ類の種多様性とその由来の解明」(研究代表者:四ツ倉典滋准教授)の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端に触れてもらうという児童・生徒へ向けた体験型プログラムを行いました。今回は小学5・6年生を対象に、「海の森の調査隊～おしよろの“こんぶ”の将来は!?～」をテーマとして忍路臨海実験所で実施しました。

当日は札幌市や小樽市のみならず、包括連携協定を結んでいる日高の様似町からも4名の参加があり、あわせて15名の小学生が参加しました。開講式では、受講生各自がプログラム参加にあたっての目標を明確にし、磯歩きの注意点を一つひとつ確認しながら野外調査に向けてモチベーションを上げていきました。続いて、実施代表者が大学で行っている研究を紹介しながら、フィールド研究の魅力を伝えました。その後、受講生はグループに分かれて磯調査に向かい、一方では磯船に乗り

込み、各グループがおよそ1時間半をかけて、「前浜のコンブとその群落のなかに茂る海藻の生育調査・採集」「水中カメラや箱メガネを用いた“コンブ藻場”の観察」「多項目水質計を使った水質調査」を順次行いました。磯焼け地帯に残る僅かなコンブ群落を目の当たりにして、札幌からの受講生は海中で起こっていることを冷静に理解し、小樽からの受講生は自分が暮らす小樽市の海の現状に危機感を感じ、様似からの受講生は地元日高の海の豊かさを再認識していました。

午後からは、午前中の調査で採取したホソメコンブとその他の海藻の種同定と押し葉標本作りを行いました。今回は28種が同定され、受講生は磯焼け地帯のコンブとその群落に守られて育つ海藻の貴重さとたくましさを感じながら、丁寧に標本作りの作業を進めていました。乾燥段階の標本は自由研究用に全員が大切に持ち帰り、夏休みの終わりには色鮮やかで美しい押し葉標本が出来上がったことでしょう。

次いで、実施分担者が“コンブの森の環境と、そこに見られる海藻類”について解説し、質疑応答によって各自が疑問点を解消することができました。その後は、実験所に保存されているコンブの培養株を顕微鏡で観察し、それらを高分子ゲルに混ぜ込んだ種苗を作成して海中へ投入する実習を行いました。

午前中の講義と磯調査により磯焼けの現状を知った受講生は、この実習を通して将来に向けて地道な取り組みが課題解決につながることを理解したようです。プログラムを終えて受講生全員が目標を達成することができました。修了式では一人ひとりに“未来博士号”が手渡されましたが、皆の達成感に満ち溢れた笑顔が素敵でした。

本プログラムは毎回主催関係者の強いチームワークのもとで実施されます。今回も準備から実施当日の円滑な進行と、安全の確保のためにご尽力いただいた教職員、及び大学院生諸氏に感謝いたします。



忍路のコンブの生育調査



船上からコンブ藻場の観察



北海道で見られる多様なコンブの解説



のぞいてみよう海の底，北海道の魚たちをまるごとリサーチ

白尻水産実験所（函館市白尻町）では、「基盤研究（B）：親潮流路にある島嶼生物の側所的進化と適応放散－極東域生物相形成史の解明を目指して」（研究代表者：宗原弘幸准教授）による成果をもとに、7月31日（日）に、3年連続6回目の「北海道の魚たちをまるごとリサーチ」を開催しました。これまでは、1泊2日で行っていましたが、学生対象の本来の実習も増えたため、小・中学生対象の本イベントは今回から日帰りとなりました。そのため、今回の参加者20名のほとんどは地元の小・中学生でした。それでも、いつも通り、海の生き物に興味を持つ子供が集まり、子供たちは、大学で行う実習さながらに海中観察、標本採集、種査定の方法などをマスターし、白尻の海の生物博士を目標に真剣に取り組みました。

最初に、白尻実験所前浜の生物相の特徴と、よく見られる生物の生態について、「北大元気プロジェクト2012」で作成した『白尻、海の生き物図鑑』を使った講義を行いました。白尻はマコンブの海です。海藻とそこを棲家にする生物たちの特徴を知ることが基本ですが、講義だけでは知識が身につかないため、実際に海に出て海中観察することが重要です。そのためには、正しいシュノーケリング技術も必要にな

ります。そこで午前は、実験所にある大きな水槽をプールに仕立てて、浮き身、シュノーケルクリア、フィンワークの練習をしました。リピーターも多くいたので、経験がある子は初めての子にコツを教えたりしながら、全員で基本スキルを会得しました。

午後からの採集と観察の前に昼食をとりました。今年の教材兼用の食材は、白尻沖を回遊するクロマグロを使用しました。未成魚は資源保護のため漁獲制限対象となっているので、今回は大きなマグロを使用しました。お腹いっぱいになってもまだマグロを食べる、まるでフードファイターのような様子でしたが、参加者には好評でした。回遊することに高度に適応進化した形態を学び、部位によって構造が異なる筋肉のそれぞれの食感を楽しむ機会になりました。おそらく一生涯記憶に残ることでしょう。

午後の最初の作業は、前浜の藻場と砂地での地引き網です。約1時間、全員で力を合わせて網を引き、多くの磯魚を採集することができました。採集した魚は、実験室に持って帰り、沖合と前浜との違い、そして藻場と砂地、異なる環境に適した魚の形態と生物相全体を比較しました。マグロなど沖合を回遊する魚種とは違って、それぞれが個性的で独特な形態をしている前浜

の魚種の中から、各自気に入った1種を選び、その魚について分布や生態などを図鑑で調べて、色鉛筆を使いスケッチしました。そして参加者全員分をまとめて、「白尻、海の生き物ミニ図鑑」に編集しました。後日、当日の写真とともにDVDにコピーして参加者の家庭に送り、ご家族にも当日の様子を楽しんでもらいました。

たった1日でしたが、水温が高かったこともあって、参加者はたっぴりと海の生物の多様性を体感することができたようです。指導に当たった学生たちとの会話も尽きず、達成感と実験の楽しさを味わって、本年度の「北海道の魚たちをまるごとリサーチ」も無事終了することができました。

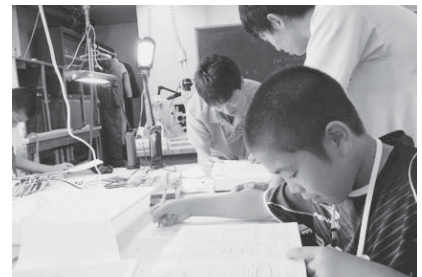
海で行うフィールドワークは、準備と安全管理が大変です。神経を使う1日になりましたが、実習をサポートする実験所の学生たちにとっては、日頃の研究活動で培うフィールド力を発揮する場でもあります。子供たちに教える過程で、海の生産力や生命の尊さを再認識し、生物を研究する学生生活を総括し、自分たちの研究意義をも問い質す機会になります。教わる側にも教える側にも有意義な夏のイベントを糧にした、学生たちの今後の成長が楽しみです。



地引網の様子



地引網で採集された魚類標本



図鑑で魚種名を調べる

動物の動きを測ってみよう～装着型記録計による行動計測～

夏休み期間中である8月9日(火)に「動物の動きを測ってみよう～装着型記録計による行動計測～」を開催しました。これは、「基盤研究(B)：高次捕食者をモデルとした北方海洋生態系多次元モニタリングネットワークの構築」、「基盤研究(A)：設置型モニタリングシステムを用いたミナミマグロ幼魚の回遊経路の解明」、「萌芽研究：多次元定量計測技術を用いた絶滅危惧種イトウの行動生態の解明」

(以上、研究代表者：宮下和士教授)による成果をもとに、体験的なプログラムで最先端の研究に触れてもらう企画で、今年が2回目となります。

中高生を対象に募集し、中学生11名・高校生10名の計21名の参加がありました。本プログラムでは、函館市国際水産・海洋総合研究センターの大型水槽(300t)で、記録計(ロガー)による魚類の行動計測とGPSを使った移動情報の収集を実施しました。開講式の後には、宮下教授による「行動を可視化するととは」の講義で、バイオリギン

グを使った最先端の行動研究の紹介と本プログラムの予備知識を説明しました。その後、受講者はカップと長靴に着替えて、実際に魚にロガーの装着を行い、大型水槽へ放流しました。放流後は、ROV(水中カメラロボット)を操作して行動観察を行いました。

ランチタイムでは、受講者と実施者が同じテーブルでお弁当を食べて、身近な話題から大学生活、研究者への道など受講者の進路相談まで話が弾みました。昼食後は、受講者がGPSロガーを持ち、センターの周りを散策して移動情報の収集を行いました。午後の実習は、実施分担者の三谷曜子准教授による「海棲哺乳類のバイオリギング」の講義から始まり、その後、GPSによる移動情報の解析結果についての解説、パソコンを使った遊泳行動データの解析を行いました。最後に、受講者に「未来博士号」を授与して、記念撮影を行って終了しました。皆様、お疲れ様でした。

本プログラムを実施するにあたり、

中学生と高校生それぞれの学習レベルに応じた解析課題を提供することで参加者が飽きないように心がけました。また、受講生を中高別に合計4班に分け、各班に補助学生1名を付けるとともに、全体を統括する補助学生を1名配置しました。各班の補助学生は、受講者と終始一緒に行動して積極的な話しかけを行い、統括担当の補助学生はそのサポートを行いました。その結果、1人で参加した受講生も寂しい思いをせず、また全体的に質問が気軽にできる雰囲気が生まれました。その甲斐があって、受講者の様子・アンケート結果からも、本プログラムは満足度が高いものであったと実感しています。

最後に、本プログラムの開催にあたり、終始ご協力いただいた教職員・学生諸氏、中学校・高等学校にポスター掲示やチラシ配布等のご協力をいただいた一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構に深く感謝いたします。



宮下教授による講義



マツカワの行動計測



GPS情報の解析結果についての解説



「未来博士号」を持って記念撮影

## 北大農場での生物資源を活用したかしこい作物生産

8月17日(水)に生物生産研究農場において、農作物や食品に関する教育が開始される中学生を対象に、北大農場の作物生産や家畜飼養の場を利用して、農業生産の仕組みを学習する機会を提供しました。前日から雨天でしたが、20名が受講しました。本プログラムは「基盤研究(B):カバークロップの導入による省資源・温暖化ガス抑制型の有機栽培の確立」(研究代表者:荒木 肇教授)の成果によるもので、ミニ講義、野外調査及びフィールド観察で構成されました。

ミニ講義は責任者の荒木教授が「環境と作物栽培」と題して、食料は地表約30cmの浅い層においてその環境を調節しながら栽培されており、北大農場では「生産と環境保全」の両立を目標にした教育研究がなされていることを紹介しました。その後、有機質資材

施用ハウスで、トマト生育調査とトマト収穫をグループに分かれて実施しました。収穫トマトの収量は実験室で調査し、堆肥やマメ科緑肥の効果を確認し、これらの資材により減肥料が実現できていることを理解しました。

その後、雨天でしたが、北大農場内を歩き、加工トマトと生食トマトの差異、ジャンボススキのバイオマス生産、ジャガイモの畝栽培、トウモロコシの食用部位等を実際に観察しました。牛舎では、餌の種類、子牛育成や放牧の実際を観察しました。乳牛糞尿はバイオガス(メタン発酵)により処理されており、堆肥製造では、微生物が増殖して有機物が分解することや、微生物の呼吸熱で堆肥内部は60℃にもなっていることを理解しました。観察後に、当日朝に搾乳・殺菌した牛乳を試飲し、「コク」を味わいました。昼

食時には、調査用に収穫したトマトや北大農場産エダマメを試食しました。

午後は、有機質資源を投入した土壌やトマトの窒素含量について、試験紙を使用して測定しました。受講生からの感想として、直に作物や家畜に接したことの喜びが聞かれ、農業科学に関心をもつ機会となりました。

本プログラムの実施にあたり、受講生の理解を促進すべく、農場や畜舎には説明看板やパネルを設置し、その縮小印刷物をテキストに入れて帰宅後にも学習できるようにしました。テキストにはデータ表のページを作成して、自身で測定したデータを記入・計算できるように工夫しました。北大農場そのものが学習の機会になり得るので、一層のプログラム進化を検討したいと思います。



実験室でのトマト収量調査



挑戦！イクラをさかなにしてみよう！

七飯淡水実験所（亀田郡七飯町）では、10月1日（土）に「挑戦！イクラをさかなにしてみよう！」を開催しました。これは、「基盤研究（B）：雑種ゲノムの発生工学的解析による育種利用に関する研究」（研究代表者：山羽悦郎教授）等の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端を、小学5・6年生から中学生に体験してもらう企画です。昨年度に続き、2回目の開催でした。

当日は快晴で、魚を飼育している川の水も澄んでいて絶好の実習日和となりました。今回の企画には、七飯町と近隣の函館市、森町に加え、札幌市や苫小牧市、さらに千葉県や兵庫県からの10名が参加しました。

体験実習では、まず成熟したサクラマスから卵と精子をしばり、受精を行っていただきました。受講者は、水と混ぜると精子が泳ぎ始めることを顕微鏡で確認し、その精子を使って受精を行いました。卵の方は、受精前には指

でつぶせるけれど、受精するとピンポン球のように弾むほど固くなることを体験しました。

昼食では、受講者自身が、それぞれ1匹の魚から内臓を取り除いた後、炭火で塩焼きにしました。メニューは他に、お刺身、イクラ醤油漬け、押し鮭とサケマス三昧でした。1番人気はいくらご飯で「ご飯の上に、家でこんなにイクラを乗せたことがない」と言って、受講者はご飯を頬張っていました。イクラ醤油漬けは、成熟した排卵卵と、未成熟の卵巣卵から作ったものを用意し、それぞれの違いを区別してもらいました。プチプチした食感のサクラマス卵の醤油漬けが人気でした。はじめは魚の串刺し作りにビクビクしていた女の子も、最後は美味しそうに塩焼きを食べていました。

午後には、塩焼きで残した骨を観察し、血管の位置を確認してから実際の魚から採血をしました。参加者は採血されたことはあっても、採血するのは

初めてでしたが、全員きれいな血液の標本を作ることができました。次に、マグロで行われている「活け締め」の実習を行いました。切断した尾部からワイヤーを入れ、脊髓を破壊します。うまくいくと、頭からワイヤーが出てきます。その後、スライドで手順を確認しながら、内臓の種類、形、つながり、心臓の構造と血の流れ、目の構造と脳とのつながりを調べました。

おやつのは、卵黄を持っている赤ちゃん魚の顕微鏡観察をし、血液がからだの中を循環する様子を確認しました。最後に、自分たちが受精した卵、2週間前と1ヶ月前に受精した卵を各家庭に持ち帰り、孵化までを観察してもらいました。

今回のプログラムでは、事務の皆さん、実験所の職員の方、そして指導の補助をいただいた学生さんにお世話になりました。子供たちが主役でしたが、主役をもり立てていただきありがとうございました。



サクラマスからの採卵



屋外飼育池で親魚を捕獲

## 経済学研究科で延世大学校商経大学と共同セミナーを開催

経済学研究科では、10月7日（金）、韓国・延世大学校商経大学と第19回共同セミナーを開催しました。延世大学校と本研究科は、平成4年以来、24年間にわたり共同セミナーを日韓交互に開催しており、学生交流にとどまらず、集中講義講師や招へい特任教員等の教員交流の基点にもしてきました。平成22年には部局間交流協定から大学間交流協定に昇格させる際の責任部局にもなりました。

今回のセミナーでは、金融・投資理論についての関心を中心に学際的な研究報告がなされ、活発な意見交換が行

われました。この共同セミナーは、最先端の理論的及び実証的研究の発表の場であるとともに、経済問題について日本と韓国の研究者が共通の認識を形成し、固有の問題を協力して解決して



活発な議論が行われたカンファレンス

いく第一歩になるものと期待しています。

（経済学研究科・経済学部）



記念撮影

## 経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナー「観光と地域開発」を開催

経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）は、アムステルダム自由大学名誉教授のPeter Nijkamp氏と本研究科のJoão Romão特任講師によるセミナー「観光と地域開発」を、10月13日（木）に経済学研究棟3階会議室において開催しました。

講演者のNijkamp氏は、ヨーロッパ地域科学学会や国際地域科学学会の会長を務められた世界的に著名な地域経済学者であり、オランダで最も権威のある科学賞であるスピノザ賞を受賞されています。Romão特任講師は、観光業の経済分析が専門分野で、特に観光業の競争力強化に向けた研究に従事しており、平成24年以来、本学の複数部局の研究者と共同研究を行ってきています。

講演では、まずRomão特任講師から、Forecasting Wellness Tourism Development in Hokkaido: A Multi Criteria Analysis（北海道におけるウェルネス観光の展望：多角的評価基準による分析）と題して、医療ではなく健康増進を目的としたウェルネス観光の世界的動向が紹介された後、北海

道における当該分野の強みや弱みを分析する研究の途中結果が紹介されました。海外に比べて北海道の観光ではこの分野のサービスの充実が遅れているものの、北海道にある恵まれた温泉、自然環境、食事、歴史・文化などの資源を活用すれば、今後大きく成長できるということが強調されました。

次にNijkamp氏から、Space and Health（空間と健康）と題した講演がありました。講演では、多様な定義が可能な健康は、それを左右する要因も多様であるが、家族や教育水準など調査対象の属性や、周囲の環境、医療機関へのアクセスといった従来から重視される要因に加え、都市化の程度という視点も重要ではないかという問題提

起がなされました。Nijkamp氏の研究は、様々な研究分野から目的も異なる多くの研究結果のデータを収集し、それらをメタ分析という新たな手法を使って分析したものです。今のところ都市化の程度が健康に与える影響についての確定的な結論は得られていませんが、この新たな分析方法について活発な質疑応答が行われました。

本セミナーは英語のみでの講演でもあり、参加者は15名程度でしたが、2名の学外研究者の参加もあり、活発な議論もあって、当初予定時間を超える有意義なセミナーとなりました。

（経済学研究科・経済学部）



アムステルダム自由大学名誉教授 Nijkamp氏



Romão特任講師の講演の様子

## 経済学研究科・経済学部で外国人留学生懇親会を開催



集合写真

経済学研究科・経済学部では10月20日（木）に研究棟3階会議室において、平成28年度外国人留学生懇親会を開催しました。

本研究科・学部では、外国人留学生が年々増加しており、特に大学院修士課程（現代経済経営専攻）においては、在籍する学生の大半を占めています。このような状況の下、留学生、日本人学生、教職員が相互に理解と親睦

を深め、交流を通して生まれた絆が留学生の生活適応や日本人学生の国際経験に資することを目的とし、本懇親会を開催しています。

9回目の開催となる今回は、司会進行とゲームの企画を修士課程1年の日本人学生と台湾及びフィンランドからの留学生、学部3・4年生の日本人学生の計5名が務め、本研究科・学部等に在籍する留学生や、そのチュー



親睦を深める参加者たち

ター・サポーター、そして国際交流に関心のある日本人学生と関係教職員など約60名が参加しました。参加者は軽食を取りながら、歓談やゲームへの参加を通して互いに親交を深め、盛況のうちに閉会しました。

（経済学研究科・経済学部）

## 経済学部で第3回プレゼン大会を開催

10月22日（土）に経済学部主催「第3回プレゼン大会」を開催しました。以前の「プレゼン・ディベート大会」からの通算で13回目となる本大会には、総勢6チームが参加しました。

当日は、本年度のテーマである「考えてみませんか？札幌の防災・減災のこと」に沿って、各チームから、厳冬期の地震対策や災害発生時の地下鉄活用など多くの独創的な提案がなされました。また、それぞれの発表に対して、参加学生から多くの質問が投げかけられ、約3時間にわたって緊張感を維持した学びに富む大会となりました。参加学生にとっては、準備に時間をかけただけあって、プレゼンしがいのある大会になったものと思われま

す。札幌での防災・減災対策について、自らのプレゼン作成及び他のチームの発表から、参加学生は理解を深めていったものと思います。本大会を通じて学んだ内容をそれぞれ実践に移してほしいと思います。

参加チームからは「他チームの発表を聞いてより良いアイデアや技術を学ぶことができた」「議論が活発で予想以上に盛り上がっていたと思う」という意見や、今後に向けて「ゼミ対抗のような大会にしたらおもしろい」という感想などが寄せられました。

各チームの発表が、甲乙つけがたい完成度であったため、審査も慎重を期すものとなりました。最終的には以下の3チームが表彰対象となりました。

優勝チーム「安部ゼミA」は、地震の際には地下の被害の方が小さいという事実をもとに、緊急時の物資輸送対策として、地下鉄を利用する可能性について検討しました。地下鉄の駅には商業施設、バスターミナルがあり、市がこれらの施設と提携することで、積み下ろしのスペースとして利用可能であることが提案されました。既に同様の試みを始めている事例を参照しながら、手堅いアイデアを示した点が評価されました。準優勝チーム「高井ボーイズ」（高井ゼミ）は、震災関連死を減らす取り組みとして、暖色系のパネルの利用と気泡緩衝材を利用し、避難所の寒さを解消するというアイデアを提案しました。寒さが体に与える影響



について、実証実験を行っていた点も含め、高い評価を受けました。3位チーム「安部ゼミB」は、地震の際に発生が懸念される火災旋風について、

事前対策と発生時の対策について事例を提示している点が評価されました。

大会終了後の意見交換も含めて、盛況のうちに大会を終えることができま

した。参加した学生、来場者の皆様に御礼申し上げます。

(経済学研究科・経済学部)



プレゼンの様子

## 経済学研究科・経済学部で「学部生、研究生のための大学院ガイダンス」を開催

経済学研究科・経済学部では、10月27日(木)に、「学部生、研究生のための大学院ガイダンス」を開催しました。本研究科教員2名から、経済学研究科(来年度から経済学院に名称変更予定)の各専攻の特色や入学試験制度などについての説明が行われました。その後、現役大学院生4名から、大学院の魅力や院生生活の紹介が行われ、最後に質疑応答という順でガイダンスが進められました。本学経済学部所属の学生、他学部生、他大学生など、計18名の出席者があり、熱心に内容を耳を傾けていました。

本ガイダンスは、学部生の就職活動

が本格的にスタートする前に実施するようにし、学部卒業後の進路が就職だけでなく、大学院進学も一つの選択肢であることを知ってもらうことを目的として行っています。

大学院生と学部生が同一の環境で研究活動を行う機会のある理系の学生と比較すると、文系学部生の多くにとって大学院は必ずしも身近な存在ではないことから、大学院がどのようなところなのかについての具体的なイメージが持ちにくい状況にあります。

そこで、本ガイダンスでは、経済学研究科の特徴や、大学院生の研究活動や生活について、教員と大学院生の双

方の視点から情報提供を行いました。出席者からは、受験に際してのコース選択の方法、入学後の学習内容、修士課程が1年で修了可能となる学部生の大学院授業の早期履修制度などについて質問が出され、大学院への関心の高さをうかがうことができ、有意義な場となったと考えています。

学生が、卒業後の進路をより多面的に考える機会が得られるよう、経済学研究科・経済学部では今後もこうしたガイダンスを定期的に開催していく予定です。

(経済学研究科・経済学部)



大学院生による「大学院への道」紹介



ガイダンスの様子

## 教育学院・教育学研究院・教育学部でFD研修を開催

教育学院・教育学研究院・教育学部では、様々なハラスメント問題への対応を考えるため、10月14日（金）に教育学部会議室において、ファカルティ・ディベロプメント（FD）研修会を開催しました。

講師として、本学のハラスメント相談室に所属する社会福祉士・精神保健福祉士である高橋賢充相談員と、精神保健福祉士の築田美抄相談員を招き、「ハラスメント防止について」と題した講演が行われました。両講師はこれ

までに医療機関や公的機関での勤務経験を有しています。

講演では、ハラスメントの本質とその現れについての理解を深めることや、大学教員が巻き込まれがちなハラスメント（加害側と被害側の両方）について、可能な限り事例を紹介しながら進められました。また、北大における相談窓口とその体制についての説明や、ハラスメントに巻き込まれたときに行うことなどの情報提供も含めて、パワーポイントで要点を示しながら講

演が進められました。

参加した43名の教職員は熱心に講演を聴き、大学におけるハラスメントの対応と予防について多くを学ぶことができました。

今後もこのような研修会等を開催していくことによって、様々なハラスメントの防止に真剣に向き合い、充実した教育研究環境の構築に努めていきたいと考えています。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



研修の企画・進行を担当した教育学院社会連携委員長の浅川和幸教授



講演する高橋相談員（左）と築田相談員



熱心に受講する教職員

## 獣医学研究科で動物慰霊式を挙行

獣医学研究科では、10月7日（金）、獣医学研究科講堂において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に多数の動物の尊

い生命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院学生のほか、飼い主等約250人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙祷を捧げた後、稲葉 睦研究科長の式

辞、参列者による献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究科・獣医学部）



式辞を述べる稲葉研究科長



献花する参列者

## 消防訓練・防災訓練等の実施

### 文系部局

文系部局では10月4日（火）、教育学研究院・教育学部、文学研究科・文学部、法学研究科・法学部、経済学研究科・経済学部、スラブ・ユーラシア研究センター合同の消防訓練を実施しました。

当日は、文学研究科玄関フロアに教

職員、学生約35名が集合し、山本文彦文学研究科長の挨拶のあと、防災設備点検業者から火災時における防火戸・防火シャッター及び屋内消火栓の取り扱い説明を受けました。その後中庭に場所を移動し、火災の発生を想定した初期消火対応として、屋内消火栓ホー

スと消火器を利用しての消火訓練を行いました。

参加者は、訓練の重要性を再認識するとともに、防火設備などの取扱方法についてより一層理解を深めました。

（文学研究科・文学部）



消火訓練の様子

### 工学系部局（工学研究院、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）

工学系部局では、10月13日（木）に自衛消防訓練を実施しました。工学系部局、国際連携機構及び国際部は合同で自衛消防組織を構成しており、今年度より、日頃から各建物の研究室等において研究支援活動等を行い、非常時に被災現場に近い場所にいるというロケーションメリットを有する工学系技術センター技術職員が新たに同組織に加わりました。

今回の訓練は、大きな地震が発生した後に材料・化学系棟の2箇所で火災

が発生し、一方は自衛消防隊が、もう一方は教員と学生が消火活動を行うという想定で行われました。今年度も、昨年度から配備されたトランシーバーを使用して訓練が行われ、全体を通して自衛消防隊本部と各対応班との連絡が迅速に行われました。

訓練は、札幌市北消防署の協力のもと行われ、終了後、同消防署より、訓練の一連の流れについて概ね良好との講評がありました。同消防署からの講評及び名和豊春工学研究院長からの防

災意識を啓蒙する挨拶は、全館放送により訓練に参加できなかった教職員及び学生へも伝えられました。

自衛消防訓練に続いて、防災設備業者の指導のもと、水消火器による消火訓練が行われ、一連の訓練を無事に終えることができました。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



防災センターから指示を行う  
多谷 司自衛消防隊長（工学系事務部長）



訓練終了後、謝辞を述べる名和工学研究院長（中央）



水消火器による消火訓練の様子



薬学研究院・薬学部

薬学研究院・薬学部では、10月25日（火）、総合研究棟2階学生実習室からの出火を想定した消防訓練を実施しました。当日は通報連絡班、避難誘導班、消火班、応急救護班に、警備員を加え、さらに教員も避難誘導に加わり、南 雅文薬学研究院長を隊長とする自衛消防本部を組織しての訓練が行われました。

今回は所属する教職員及び学生が参

加する訓練を実施し、自衛消防本部との連携により、すべての参加者が昨年よりも速やかに避難を完了するなど、訓練参加者の防災意識の高さが確認できました。訓練は札幌市北消防署の協力を得て、一連の進行状況を確認してもらい、全体的には、概ね良好との講評をいただきました。

最後に、南薬学研究院長から教職員及び学生の防災意識を啓蒙する挨拶が

あり、全体での消防訓練は終了しました。

消防訓練終了後は、防災設備業者の指導の下、消火器を使用した消火訓練並びに布担架による救助訓練が行われました。

（薬学研究院・薬学部）



初期消火活動の様子



南薬学研究院長の挨拶



布担架の使用訓練

北海道大学病院

北海道大学病院では、10月26日（水）、地震の発生及びこれに伴う病棟10階給湯室からの出火という想定で、総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練は地震発生放送で始まり、迅速な自衛消防組織本部及び地区隊の編成、また、エレベーターに閉じ込められた人への対処などの訓練を行

いました。

火災発生のアナウンスがされると、出火病棟の地区隊が初期消火や避難誘導にあたり、また自衛消防隊各班も、救護所の設置や消火の応援、危険物の管理、重要物品の搬出など、各々の役割に基づいて行動しました。

訓練終了後には、北消防署の担当官

から「災害時には情報の管理と共有が非常に重要。パニックにならないよう、患者や一般の人にも情報をうまく共有する必要がある」との講評がありました。

（北海道大学病院）



消火栓による初期消火



模擬患者の搬送

理学研究院

理学研究院では、10月27日（木）に札幌市北消防署の立ち会いのもと、消防訓練を実施しました。

当日は、曇りで強風が吹く肌寒い天候の中、7号館2階2-11室から出火した想定で、石森浩一郎理学研究院長を隊長とする事務部で構成された自衛

消防隊による通報連絡、非常放送、初期消火、避難誘導、救護等の総合的な訓練を、教職員・学生約200名が参加し実施しました。

訓練終了後には、北消防署予防課の職員の方から、訓練は概ね良好であったとの講評をいただいたほか、今後も

常に防災意識を持っていただきたいとの要請があり、続いて石森理学研究院長から、訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、日頃からの防災に対する意識を啓蒙する挨拶がありました。

（理学院・理学研究院・理学部）



初期消火活動の様子



訓練終了後に挨拶する石森理学研究院長



消火訓練の様子

医学研究科・医学部，遺伝子病制御研究所，アイソトープ総合センター

医学研究科・医学部，遺伝子病制御研究所，アイソトープ総合センターは合同で、10月31日（月），医学研究科管理棟1階給湯室から出火したとの想定で、消防訓練を実施しました。

出火時の初動体制を確立するために、自衛消防班が直ちに活動し、出火場所に対応して各職務分担の任務（通報連絡・避難誘導・消火・防護措置・

救護）を行い、被害を最小限に食い止める訓練を実施しました。

最後に笠原正典研究科長から、訓練を通し、火災時の避難や自衛消防の手順について理解を深めることの重要性や日頃の防火に対する心構えについて話があり、参加した約130名の教職員・学生は防災意識を改めて見直す機会となりました。

今年度の消防訓練は雨天のため、例年行っている消火器訓練は実施することができませんでしたが、多くの教職員・学生が参加し、一連の消防訓練を無事に終えることができました。

（医学研究科・医学部）



消火訓練の様子



笠原研究科長の挨拶

附属図書館

附属図書館本館では、10月31日（月）に東棟2階第1会議室から出火したとの想定のもと、図書館利用者及び職員87名が参加して防災訓練を実施しました。

英語による館内放送並びに掲示も行い、火災発生後、直ちに「通報連絡

係、避難誘導係、消火係、防護措置係、救護係、搬出係」の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて防災設備業者指導

のもと、消火器具の取扱説明及び実地訓練を実施し、使用方法についてより一層の理解を深め、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）



負傷者役を搬出する職員



消火器訓練をする職員

獣医学研究科

獣医学研究科では、11月1日（火）に防火訓練を実施しました。

当日は、市内の正午の気温が2.7度という厳しい寒さの中での訓練となりましたが、約150名の教職員・学生が参加して実施しました。

避難訓練では出火時における初動体

制の確立を目的として、本館3階の生理学第一実験室から出火したとの想定で始まり、自衛消防隊各班の訓練計画に基づいた職務分担に従い、通報、初期消火、避難誘導を行い、被害を最小限に食い止める訓練を実施しました。

避難訓練に引き続き、消火器を使っ

た放水による消火訓練及び4階からの救助袋による降下訓練を防災設備業者指導の下で実施し、使用方法に理解を深め、一連の防火訓練を行うことができました。

（獣医学研究科・獣医学部）



初期消火の様子



消火器を使った訓練



救助袋を使った降下訓練



## 函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施

10月26日（水）に、函館キャンパスにおいて「秋のキャンパス一斉清掃」を実施し、学生・教職員を合わせて約200名が参加しました。

当日は晴天にも恵まれ、絶好の清掃日和となり、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができ、大変きれいになりました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約3㎡となりました。

函館キャンパスでは毎年、春と秋に年2回、「キャンパス一斉清掃」を行っており、次回は来年の5月中旬を予定しています。引き続き、環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

ご協力ありがとうございました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



協力し合いながらの清掃作業



清掃作業を行う学生たち



## 附属図書館で「ウィキペディアキャンパス in 北大」ワークショップを開催

10月1日（土）に附属図書館本館オープンエリアにおいて、ワークショップ「ウィキペディアキャンパス in 北大」を開催しました。

これは、オンライン百科事典・ウィキペディアに本学に関連する記事を執筆するイベントで、ウィキペディアを運営するウィキメディア財団の助成を受けて実施しました。キャンパス内の歴史的建造物等に関する情報の発信を利用した社会貢献や情報リテラシー能力向上、オープンデータについての興味・関心の涵養を目的としています。参加者は本学学生、職員、卒業生、一般市民等の17名でした。

当日は「北大キャンパスビジットプロジェクト」の学生によるキャンパスツアーのあと、ウィキペディアのベテ

ラン編集者である日下九八氏（ウィキペディア日本語版管理者）、岡田一祐氏（東京外国語大学／本学文学研究科出身）の講義・アドバイスを参考にしながら、附属図書館の所蔵文献を元に「古河講堂」「旧昆虫学及養蚕学教室」「北海道大学附属図書館」の3記事を新規作成したほか、既存記事「サクシュコトニ川」への加筆や、「北大

ポプラ並木」の英語及び中国語への翻訳も行いました。参加者からは「達成感があった」「今後も上手にウィキペディアを利用して編集も積極的にやってみたい」といった声が寄せられ、充実のワークショップとなりました。

（附属図書館）



学生ガイドによるキャンパスツアー



ウィキペディアへ書き込む参加者

## 北海道大学病院で北海道国際医療ネットワークを開催

北海道大学病院は10月22日（土）、京王プラザホテル札幌において、「北海道国際医療ネットワーク」を開催しました。本会は、道内で国際医療に携わる関係者がこれまでの実績及び今後の取り組みについての情報共有を行うことを目的として、本院が主催し、今回初めて開催したものです。

寶金清博病院長からの挨拶に引き続き、来賓の辻 泰弘北海道副知事、長瀬 清北海道医師会会長からご挨拶をいただき、本会は開会しました。

第1部では「海外の医療事情における日本の担うべき役割」をテーマに、6名から講演をいただきました。経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課の笹子宗一郎国際展開推進室長からは、行政の視点から医療の国際展開・インバウンド（外国人患者受入れ）について、一般社団法人Medical Excellence JAPANの相川直樹理事からは、医療国際展開への支援について講演があり

ました。続いて、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社の麻田万奈国際医療事業部次長からは、コーディネータの視点でインバウンドの現況について、医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院の岸 郁夫事務長、医療法人雄心会 函館新都市病院の大堀秀実事務部長からはそれぞれ、両病院の先駆的なインバウンドの取り組みについての講演がありました。ウラジオストク北斗画像診断センター（ロシア）のデニソワ・スベトラナセンター長からは、社会医療法人北斗（帯広市）がロシアに展開する同センターの実績と展望について講演がありました。

第2部では「医療教育：今後の発展のために」をテーマに、3名から講演をいただきました。本院と部局間交流協定を締結している輔仁大学外国語文学院（台湾）の楊承淑教授からは、医療通訳者の育成について、北海道医療大学国際交流推進室長の安彦善裕教授

からは、主に医療系学生の国際化に向けた教育について、医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院の星 哲哉臨床研修部長からは、研修医育成に関する国際的な取り組みについて、それぞれ講演がありました。

その後、寶金病院長からの「国際医療の現状と課題」についての講演に続いて、講演者によるパネルディスカッションが行われました。医療通訳、国際医療に関する病院認定制度、外国人患者への料金設定、医療人に対する国際教育といった4点について活発な議論が行われ、豊嶋崇徳国際医療部長からの挨拶で盛会裡に閉会しました。

初めての試みではありましたが、「国際医療」という未開拓の領域において、関係者間での情報共有、相互理解を深める好機となる大変有意義な会となりました。

（北海道大学病院）



辻北海道副知事からの来賓挨拶



長瀬北海道医師会会長からの来賓挨拶



活発な議論が行われたパネルディスカッション

## Quizon氏、稲葉氏が環境健康科学研究教育センターを訪問

10月17日（月）、フィリピン大学のRomeo Quizon公衆衛生学部長と、国立保健医療科学院/WHOたばこ製品の成分規制に関する研究協力センターの稲葉洋平特命上席主任研究官の2名が、サステナビリティ・ウィークの国際シンポジウムの開催に合わせて、環境健康科学研究教育センターを訪問しました。

環境健康科学研究教育センターは昨年、WHO Collaborating Centre (WHOCC) for Environmental Health and Prevention of Chemical Hazards (WHO 環境化学

物質による健康障害の予防に関する研究センター)に指定されました。本センターは、WHOCCの一つとして、環境と健康に関する様々な課題に取り組むと共に、国内外、特にアジア地域における他のWHOCCとも積極的な交流を進めています。今回の2名の来訪はWHOCCとしての活動の一環になります。

国際シンポジウム翌日は、Quizon氏と本学の教員、研究員が参加して情報交換や研究紹介などを行いました。本学からは、本センターにおける出生

コーホート研究や室内空気質の研究の紹介、地球環境科学研究院におけるナノマテリアルの毒性の研究について報告をしました。Quizon氏からは、フィリピン大学での公衆衛生学に関するプログラムやこれまでの取り組みに関する発表がありました。

活発な質疑応答や意見交換が行われ、今後の研究交流にもつながる機会となりました。

(環境健康科学研究教育センター)



当センターを来訪した稲葉氏（左）とQuizon氏（右）



意見交換の様子



## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成28年10月12日）

議案・「第3期中期目標期間における各年度に係る評価の実施に関する基本方針」の策定について

- ・平成29年度年度計画の作成方針について
- ・クロスアポイントメントの適用について
- ・平成28年度部局評価配分事業について

協議事項・入構車両抑制事業の見直しについて

報告事項・会計検査院第5局による会計実地検査の結果について

---

### 教育研究評議会（平成28年10月19日）

議題・情報セキュリティ対策基本計画の策定について

報告事項・北海道大学ホームカミングデー2016の実施報告について

- ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・サステナビリティ・ウィーク2016への協力依頼について
  - ・学生の懲戒について
- 

### 役員会（平成28年10月24日）

議案・情報セキュリティ対策基本計画の策定について

報告事項・平成28年度北海道大学進学相談会の開催結果について

- ・「大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築」の試行への協力について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

（平成28年11月1日海大達第197号）

獣医学研究科の全専攻の全講座に採用する助教のうち、卓越研究員事業に基づいて採用する助教について、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第2号の規定に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## ■ 研修

---

### 平成28年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修初級編）

---

開催期間：平成28年 6月22日・23日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：業務システムのデータをAccessを利用して活用するための知識，基本的な情報セキュリティ等の知識を習得する。



研修の様子

(総務企画部情報企画課)

---

### 平成28年度北海道地区国立大学法人等アドバイラストラータ研修

---

開催期間：平成28年10月19日・20日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：アドバイラストラータの基本操作の実習を通して，既存データの編集，簡単な図形を組み合わせたイラスト作成など，業務上使用する上で必要となる基礎知識を習得する。



研修の様子

(総務企画部情報企画課)

## 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
28.10.14	スイス連邦工科大学 Heinz Blatter 教授, ブレーメン大学 (ドイツ) Wilhelm Hagen 教授	講義実施
28.10.17	在札幌米国総領事館 Rachel Brunette-Chen 首席領事	着任挨拶及び両国の交流に関する懇談
28.10.24	コロラド州立大学 (アメリカ) Thom Hadley 獣医生物医学 財務・戦略部長	両大学の交流に関する懇談
28.10.27	Betty Grace Akech - Okullo 駐日ウガンダ共和国大使	両国の交流に関する懇談
28.10.28	駐日オーストラリア大使館 Brett Cooper 公使	着任挨拶及び両国の交流に関する懇談
28.10.28	カーティン大学 (オーストラリア) Seth Kunin 副学長	両大学の交流に関する懇談



スイス連邦工科大学 Heinz Blatter 教授 (前列中央),  
ブレーメン大学 (ドイツ) Wilhelm Hagen 教授 (前列左)



在札幌米国総領事館  
Rachel Brunette-Chen 首席領事 (中央)



コロラド州立大学 (アメリカ)  
Thom Hadley 獣医生物医学 財務・戦略部長  
(前列中央右)



Betty Grace Akech - Okullo  
駐日ウガンダ共和国大使 (前列中央左)



駐日オーストラリア大使館 Brett Cooper 公使  
(前列中央)



カーティン大学 (オーストラリア)  
Seth Kunin 副学長 (中央)

(国際部国際連携課)



## ■人事

平成28年10月3日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 大学院歯学研究科助教	中 島 利 徳	採用

平成28年10月10日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	榊 原 守	北海道大学病院助教

平成28年10月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 大学院農学研究院助教 大学院農学研究院助教	早 川 徹 MARIA STEFANIE DWIYANTI	帯広畜産大学畜産衛生学研究部門助教 採用

平成28年10月17日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 国際連携研究教育局助教	SEKIYA TOSHIKI	採用

平成28年10月20日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	佐々木 慎太郎	北海道大学病院看護部看護師

平成28年10月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	佐 藤 一 歩 堀 田 彩 花 望 月 抄 苗	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院医療技術部臨床検査技師

平成28年11月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院工学研究院教授 (転出) 九州大学教授	坂 田 章 吉 柏 崎 晴 彦	採用 北海道大学病院講師
【講師】 大学院法学研究科講師	李 承 赫	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院保健科学研究院講師	櫻 井 俊 宏	大学院保健科学研究院助教
<b>【助教】</b> 大学院獣医学研究科助教 大学院水産科学研究院助教 大学院理学研究院助教 触媒科学研究所助教 国際連携研究教育局助教 (転出) 京都大学医学部附属病院助教 名古屋大学工学研究科助教	戸 田 知 得 阿 部 泰 人 篠 崎 彩 子 王 ヤ ン XU Q I O N G 志 水 陽 一 前 田 英次郎	採用 採用 採用 採用 採用 大学院薬学研究院助教 大学院工学研究院助教

新任教授紹介

平成28年11月1日付



工学研究院教授に

さかた しょうきち  
**坂田 章吉 氏**

環境循環システム部門  
 資源循環工学分野

生年月日

昭和34年 5 月 9 日

最終学歴

筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士前期課程修了 (平成25年 3 月)  
 修士 (法学) (筑波大学)

専門分野

資源マネジメント, プロジェクトマネジメント,  
 国際協力

## 訃報

名誉教授 にしむら まさきち 西村 雅吉 氏  
(享年99歳)



名誉教授 西村雅吉先生が、平成28年9月19日に逝去されました。先生は、大正6年7月4日北海道旭川区で生まれ、昭和15年3月北海道帝国大学理学部化学科を卒業し、直ちに同大学理学部助手に任ぜられ、同21年1月同学部助教授、同40年8月北海道大学水産学部教授に昇任し、新設された水産化学科分析化学講座を担当されました。昭和56年4月停年により退職し、同年同月北海道大学名誉教授の称号を

授与されました。

西村先生は在職39年間にわたり教育と研究に大きな貢献をされました。

教育面では、その温厚で誠実な人柄と優れた識見及び指導力により、多数の学生の教育にあたり、優秀な技術者、研究者を世に送り出しました。特に、昭和40年に北海道大学水産学部教授として新設された水産化学科分析化学講座を担当して以来、全国に例を見ない水産化学科のカリキュラムを確立されるとともに、専門基礎としての分析化学を水産化学科、水産食品学科の学生に教授されました。

研究面では、海洋分析学の分野において、海水の水銀の正確な分析法を開発し、海洋学的地球化学的問題解決に貢献されました。西村先生の水銀に関する研究は極めて多数の測定値を報告し、それまで誤って報告されていた値を見直すとともに、環境科学的にも極

めて貴重な知見となり世界的にも高く評価されています。また、第四級アンモニウム塩の存在が高次錯体の生成を引き起こす等純分析化学的に価値のある研究も行いました。これらの成果が基になり、昭和52年に日本分析化学学会賞を受賞され、また、平成7年11月には勲三等瑞宝章を受章されました。

以上のように西村先生は、分析化学、地球化学、環境科学、海洋学等の極めて幅の広い学術研究と多数の有為な人材の養成等の教育分野で優れた業績をあげ、斯界における学会及び社会の発展のため多大な貢献されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

名誉教授 よしむら じん 芳村 仁 氏  
(享年84歳)



名誉教授 芳村 仁先生が平成28年9月30日に逝去されました。先生は、昭和30年3月北海道大学工学部土木工学科をご卒業後、同大学院工学研究科修士課程を経て、同32年4月同工学部土木工学科に講師として着任されました。その後、昭和33年4月に助教授、同45年4月には教授に昇任され、担当された土木工学科構造力学講座におい

ては、多くの学生の教育と研究指導を通じて、優れた技術者と研究者の育成に尽力されました。

先生のご専門は土木構造力学と構造動力学であり、曲線直交異方性扇状平板の一連の研究から曲線橋の立体的解析、さらには構造振動問題や応力波伝播問題等の分野でも顕著な研究業績を挙げられました。また、不連続壁体からなるコンクリートステープ・サイロの耐震安全性に関する理論的及び実験的研究では、非線形性に基づく減衰効果を初めて明らかにするなど、耐震工学の分野でも優れた成果を挙げられました。先生のご活躍は工学部・工学研究科内に留まらず、学内では農学部及び教養部、学外では室蘭工業大学で教鞭を執られ、多くの学生の教育にも貢献されました。北海道大学退官後は、

釧路工業高等専門学校校長として、精力的な教育指導に尽力され、平成19年秋にはこれらの顕著な教育研究功勞により瑞宝中綬章を受章されました。

学外では、土木学会理事・副会長をはじめ、同学会本州四国連絡橋耐震研究小委員会委員、学術審議会専門委員及び全国共同利用大型計算機センター常置委員会委員等を歴任され、学術の発展に寄与されるとともに、平成8年の豊浜トンネル崩落事故調査委員会では、委員長として崩落原因の究明及び国道の安全性向上に関する検討を行うなど、地域社会へも貢献されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)



とくい みちよ  
特任准教授 徳井 美智代 氏  
(享年49歳)



特任准教授 徳井美智代氏は、平成28年10月25日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、平成3年3月に都留文科大学を卒業し、民間会社勤務を経て、同17年3月に小樽商科大学大学院商学研究科を修了されました。その後、平成18年4月に北海道大学大学院教育学研

究科博士後期課程に進学し、同25年3月、北海道大学高等教育推進機構特任准教授として採用されました。

先生は、国内8大学による共同教育推進事業「教学評価体制による学士課程教育の質保証」（平成24～28年度、代表校：北海道大学）の担当教員として、事業全般を牽引する中で、ご専門である教育社会学を生かし、卒業生調査の設問設計から調査、分析に至るまで中心的役割を担われました。さらに、学内で進めている学生調査や卒業生調査を発展させ、学校教育が目指す能力と社会や企業が目指す能力の差異と共通点を明らかにする研究を進められました。また、高等教育の最新の課題となっているアクティブ・ラーニングの研究にも早くから取り組み、その調査手法は多くの研究者の模範とな

るものでした。

全学教育においては、一般教育演習「飲みニケーション（飲酒とコミュニケーション）について考える」を開講され、毎年定員を大きく上回る受講希望者のあった同授業の担当等により、学生の飲酒事故防止にも尽力されました。この他、教育学部の後輩に対する研究指導等、後進の育成にも積極的に取り組まれました。

明朗で快活な先生は、どのような場でも人々の信頼を得て、中心的な存在として教育と研究に多大な貢献をされました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(高等教育推進機構)

# 資料

## 役 職 員 数

平成28年10月1日現在

部 局 等	職 種	総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
役 員		1人	7人	2人	10人											10人
監査室														7		7
事務局	総務企画部												4	88	12	104
	財務部													78		78
	学務部													70		70
	研究推進部													30	1	31
	施設部													9	25	34
	国際部													37		37
附属図書館														89		89
文学研究科・文学部					56	35		8			99	3		15		117
法学研究科・法学部					36	15	1	10	2		64		2	19		85
経済学研究科・経済学部					25	17		5			47		2	8		57
医学研究科・医学部					39	33	15	67	3		157				13	170
医学系事務部														45	2	47
歯学研究科・歯学部					19	18	2	48			87			11	5	103
獣医学研究科・獣医学部					17	15	5	15			52			13	3	68
情報科学研究科					41	32		17			90					90
水産科学院・水産科学研究院・水産学部					29	33	1	17			80				40	120
函館キャンパス事務部														23	4	27
環境科学院・地球環境科学研究院					22	23		8	1		54					54
環境科学事務部														11		11
理学院・理学研究院・理学部					74	72	10	47	2		205		2		18	225
理学・生命科学事務部														42	2	44
薬学研究院・薬学部					16	8	9	24			57				3	60
薬学事務部														10		10
農学院・農学研究院・農学部					46	37	30	17			130				11	141
農学事務部														26	2	28
生命科学院・先端生命科学研究院					10	6	2	10			28					28
教育学院・教育学研究院・教育学部					14	23		4	1		42					42
教育学事務部														8		8
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院					26	28	2	3			59					59
メディア・観光学事務部														10		10
保健科学院・保健科学研究院					28	11	5	32			76					76
工学院・工学研究院・工学部					96	97	2	96	1		292		1		53	346
工学系事務部														68	3	71
総合化学院																
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部					12	6	3				21					21
北海道大学病院					4	21	55	79			159			118	662	939
低温科学研究所					12	11	1	22			46			8	9	63
電子科学研究所					15	13		23			51				10	61
遺伝子病制御研究所					8	5	2	17			32				7	39
触媒科学研究所					8	7		7			22				6	28
スラブ・ユーラシア研究センター					7	4		5	1		17					17
情報基盤センター					7	5		3			15					15
人獣共通感染症リサーチセンター					6	5	3	3			17				2	19
アイソトープ総合センター					1	1		1			3				2	5
量子集積エレクトロニクス研究センター					3	3					6					6
北方生物圏フィールド科学センター					14	18		11			43			18	70	131
観光学高等研究センター					3	2					5					5
アイヌ・先住民研究センター					1	6		1			8					8
社会科学実験研究センター								1			1					1
環境健康科学研究教育センター						1					1					1
北極域研究センター					2			2			4					4
脳科学研究教育センター																
外国語教育センター																
総合博物館					3	2	2	2			9					9
大学文書館						1					1				1	2
保健センター					1		2				3				9	12
埋蔵文化財調査センター								2			2					2
国際連携研究教育局					7 (34)	4 (22)	(8)	8 (13)			19					19
技術支援本部																
情報環境推進本部																
アドミッションセンター																
人材育成本部																
創成研究機構						1		1			2		1		8	11
高等教育推進機構					2	7	1				10				4	14
サステイナブルキャンパス推進本部																
安全衛生本部					2						2		1			3
大学力強化推進本部												11				11
産学・地域協働推進機構					1						1		7			8
総合IR室																
国際連携機構					4	6		8			18		7			25
北キャンパス合同事務部														15		15
合 計		1	7	2	10	717	632	153	624	11	2,137	14	27	876	987	4,051

※国際連携研究教育局の教職員数の（ ）内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上。  
 (経済学研究科：1名、医学研究科：7名、獣医学研究科：3名、情報科学研究科4名、水産科学研究院：1名、地球環境科学研究院：4名、農学研究院：14名、先端生命科学研究院：10名、  
 教育学研究院：1名、メディア・コミュニケーション研究院：1名、保健科学研究院：2名、工学研究院：3名、北海道大学病院：4名、低温科学研究所：1名、電子科学研究所：3名、  
 スラブ・ユーラシア研究センター：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：11名、北方生物圏フィールド科学センター：1名、北極域研究センター：4名)

(総務企画部人事課)

## 在籍学生数 (平成28年10月1日現在)

- (注) 1 ( ) 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。  
 2 [ ] 内は2年次編入学定員で外数。  
 3 { } 内は3年次編入学定員で外数 (工学部は高専卒業者の受入れ)。  
 4 以下の表は, すべて外国人留学生数を含む。

## ■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人]	人	191人	189人	241人	一人	一人	621人 (292<47.0%>)	11人	7人	48人	69人	756人 (393<52.0%>)
教育学部	50 [10]		54	68	70	—	—	192 (90<46.9%>)	1	11	22	5	231 (116<50.2%>)
法学部	200 [10][10]		205	222	238	—	—	665 (214<32.2%>)	6	2		12	685 (225<32.8%>)
経済学部	190		203	194	233	—	—	630 (145<23.0%>)	1		39	15	685 (182<26.6%>)
理学部	300		307	321	344	—	—	972 (230<23.7%>)	1	5		14	992 (238<24.0%>)
医学部	287 [5][20]		299	314	304	127	103	1,147 (524<45.7%>)				2	1,149 (526<45.8%>)
歯学部	53		59	53	51	53	41	257 (99<38.5%>)			2		259 (99<38.2%>)
薬学部	80		83	82	79	29	30	303 (125<41.3%>)		3	1		307 (125<40.7%>)
工学部	670 [10]		696	739	850	—	—	2,285 (320<14.0%>)	1			39	2,325 (333<14.3%>)
農学部	215		223	235	240	—	—	698 (261<37.4%>)	1	1	2	18	720 (273<37.9%>)
獣医学部	40		42	44	45	37	43	211 (84<39.8%>)				21	232 (99<42.7%>)
水産学部	215		233	230	200	—	—	663 (148<22.3%>)			6	8	677 (153<22.6%>)
現代日本語プログラム課程	—		11			—	—	11 (9<81.8%>)					11 (9<81.8%>)
総合教育部	—	2,685	—	—	—	—	—	2,685 (806<30.0%>)				96	2,781 (852<30.6%>)
合計	2,485 [15][50]	2,685	2,606	2,691	2,895	246	217	11,340 (3,347<29.5%>)	22	29	120	299	11,810 (3,623<30.7%>)

※学部の入学定員は, 学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

## ■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
観光学高等研究センター	3人	一人	一人	一人	3人(1<33.3%>)
低温科学研究所	2	—	—	—	2(2<100.0%>)
電子科学研究所	1	1	—	—	2(1<50.0%>)
遺伝子病制御研究所	4	—	—	—	4(0<0.0%>)
触媒科学研究所	3	—	—	—	3(2<66.7%>)
スラブ・ユーラシア研究センター	1	—	—	—	1(0<0.0%>)
情報基盤センター	7	—	—	—	7(3<42.9%>)
国際連携機構	1	—	45	32	78(49<62.8%>)
総合博物館	1	—	—	—	1(1<100.0%>)
北方生物圏フィールド科学センター	4	—	—	—	4(2<50.0%>)
合計	27	1	45	32	105(61<58.1%>)



(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。

生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。

## ■大学院

研究科等名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計		
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文学研究科	90人	84人	115人	199人 (46.7%)	—人	—人	—人	—人	—人	35人	35人	28人	111人	—人	174人 (90.517%)	5人	0人	13人	9人	7人	407人 (209(51.4%))
法学研究科	20	13	21	34 (16(47.1))	50	15	19	14	—	106 (26(24.5))	15	4	10	26	—	40 (14(35.0))	2	17	8	2	209 (72(34.4))
経済学研究科	30	36	39	75 (45(60.0))	20	12	13	—	—	25 (4(16.0))	15	5	3	15	—	23 (8(34.8))	—	2	2	—	127 (60(47.2))
医学研究科	30	32	20	52 (29(55.8))	—	—	—	—	—	—	100	93	91	89	156	429 (101(23.5))	2	9	—	3	495 (133(26.9))
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	33	37	28	27	125 (47(37.6))	—	12	—	—	137 (51(37.2))
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	32	18	30	22	102 (46(45.1))	—	12	—	—	114 (51(44.7))
情報科学研究科	177	179	188	367 (42(11.4))	—	—	—	—	—	—	42	41	26	81	—	148 (20(13.5))	—	11	2	3	531 (64(12.1))
水産科学院	90	114	98	212 (58(27.4))	—	—	—	—	—	—	35	21	15	21	—	57 (17(29.8))	—	—	1	6	276 (78(28.3))
水産科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	2 (1(50.0))
環境科学院	159	145	169	314 (132(42.0))	—	—	—	—	—	—	63	34	46	87	—	167 (57(34.1))	—	—	4	1	486 (191(39.3))
地球環境科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29	—	—	—	29 (16(55.2))
理学院	129	144	139	283 (49(17.3))	—	—	—	—	—	—	56	52	45	58	—	155 (27(17.4))	1	—	—	9	448 (78(17.4))
理学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	10 (3(30.0))
薬学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0(0.0))
農学院	150	181	156	337 (127(37.7))	—	—	—	—	—	—	50	39	42	65	—	146 (43(29.5))	—	—	2	2	487 (171(35.1))
農学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	—	—	23 (17(73.9))
生命科学学院	132	128	139	267 (98(36.7))	—	—	—	—	—	—	46	45	36	57	—	162 (41(25.3))	—	—	—	2	431 (141(32.7))
先端生命科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	5	8	5	6	—	—	—	—	—	0 (0(0.0))
教育学院	45	38	58	96 (66(68.8))	—	—	—	—	—	—	21	19	13	53	—	85 (41(48.2))	3	—	2	—	186 (111(59.7))
教育学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	—	—	6 (3(50.0))
国際広報メディア・観光学院	42	44	56	100 (71(71.0))	—	—	—	—	—	—	17	14	13	52	—	79 (39(49.4))	2	—	2	—	183 (113(61.7))
メディア・コミュニケーション研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27	—	—	—	27 (23(85.2))
保健科学院	26	49	61	110 (50(45.5))	—	—	—	—	—	—	8	10	11	16	—	37 (15(40.5))	—	—	—	—	147 (65(44.2))
保健科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	7 (4(57.1))
工学院	326	380	361	741 (110(14.8))	—	—	—	—	—	—	69	69	44	71	—	184 (30(16.3))	—	—	10	15	950 (152(16.0))
工学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	—	—	—	42 (10(23.8))
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5 (0(0.0))	—	—	—	—	—	5 (0(0.0))
総合化学院	129	150	149	299 (61(20.4))	—	—	—	—	—	—	38	53	43	64	—	160 (35(21.9))	—	—	1	1	461 (97(21.0))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	29	46	—	75 (24(32.0))	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	78 (24(30.8))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	1	—	12 (8(66.7))
合計	1,575	1,717	1,769	3,486 (1,047(30.0))	100	83	109	14	206 (54(26.2))	680	604	529	934	211	2,278 (671(29.5))	11	7	233	43	52	6,316 (1,946(30.8))

(学務部学務企画課)

## 広報誌等一覧

平成28年10月調査

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
事務局	企画課	北海道大学近未来戦略150 (英語・日本語併記版)	不定期	H26年 8月	北海道大学創基150年に向けた近未来戦略
	広報課	北海道大学読本	不定期	H26年11月	「北大を知るならまずここから」をコンセプトに、本学をコンパクトにわかりやすく紹介
		ビジュアルブック	不定期	H27年 3月	色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパス風景を四季ごとに紹介
		北海道大学概要	年 1回	H28年度版	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載
		リテラポプリ	年 2回	H28年 4月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介
		北大時報	月 1回	H28年10月	その月の大学や部局のニュース、お知らせ等を掲載
		キャンパスガイドマップ	不定期	H27年 4月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
	主計課財務管理室	財務レポート	年 1回	H28年10月	財務諸表では伝わりにくい財務情報をわかりやすく分析し、併せて本学の活動のうち特徴的なものを財務情報を交えて紹介
	学務企画課	新渡戸カレッジパンフレット	年 1回	H28年 8月	新渡戸カレッジの概要を掲載
		新渡戸カレッジパンフレット (企業向け)	不定期	H27年 9月	新渡戸カレッジの概要を掲載 (企業向け)
		新渡戸スクールリーフレット	年 1回	H28年 3月	新渡戸スクールの活動内容を紹介
	学生支援課	えるむ	年 3回	H28年 9月	学生向けに学内行事・ニュース・お知らせ等を掲載
		北大元気プロジェクト実施報告書	年 1回	H28年 4月	北大元気プロジェクトの活動報告を掲載
		学生生活の案内	年 1回	H28年 4月	学部学生向けの学生生活案内
		学生相談室 広報用カード	不定期	H27年 3月	学生相談室の概要
		特別修学支援室リーフレット	不定期	H28年 7月	特別修学支援室の概要
		キャンパスライフサポートマップ	不定期	H28年 4月	アクセシビリティ調査の結果と学内の関係機関と支援学生の協力により作成した環境情報を掲載
		とって北大生	4年に1回	H26年 8月	学生生活実態調査の結果を元に北大生の学生生活を紹介
		北海道大学学生寮入寮案内-恵迪寮-	年 1回	H28年 1月	学生寮 (恵迪寮) の概要・入寮出願手続き等を掲載
		北海道大学学生寮入寮案内-霜星寮-	年 1回	H28年 1月	学生寮 (霜星寮) の概要・入寮出願手続き等を掲載
		北海道大学学生寮入寮案内-北大インターナショナルハウス北23条2号棟-	年 1回	H28年 1月	学生寮 (北大インターナショナルハウス北23条2号棟) の概要・入寮出願手続き等を掲載
		大滝セミナーハウスリーフレット	不定期	H26年 4月	大滝セミナーハウスの施設紹介
		入試課	Be ambitious (大学案内)	年 1回	H28年 6月
	オープンキャンパス		年 1回	H28年 5月	オープンキャンパスの実施内容を掲載
	AO入試案内		年 1回	H28年 5月	AO入試の概要について掲載
	入学者選抜要項		年 1回	H28年 7月	平成29年度入学者選抜に関する概要
	北大キャンパスビジットプロジェクト 北大ぐるぶらマップ		不定期	H26年 3月	北大キャンパスビジットプロジェクト概要紹介、キャンパス案内
知のフロンティア -北海道大学の研究者は、いま-	不定期		H26年10月	本学教員の研究内容紹介	
キャリアセンター	キャリア通信	年 3回	H28年 9月	(学生・教職員向け) キャリアセンター利用案内、各種就職ガイダンス・セミナー情報、インターンシップ情報等を掲載 (発行時期により内容は異なる)	
	就職活動のためのキャリアハンドブック	年 1回	H28年 9月	(就職希望学生向け) 各種就職関連情報等を掲載	
	就職活動のためのキャリアハンドブック (日本語・英語併記版、日本語・中国語併記版)	年 1回	H28年 9月	(日本での就職を希望する外国人留学生向け) 日本独自の慣習や就職活動の流れ等を掲載	
施設企画課	北海道大学キャンパスマスタープラン2006	不定期	H19年10月	21世紀に向けた大学の未来像を現実化するために、教育研究内容に相応しい長期的観点に立ち、将来構想を踏まえた施設整備の基本方針を定めたキャンパス計画	
	北海道大学キャンパスマスタープラン2006 リーフレット	不定期	H19年10月	キャンパスマスタープラン2006の概要を掲載	
施設整備課	歴史的資産ガイドマップ	不定期	H28年 7月	北海道大学の歴史的資産 (建造物等) をマップと写真で紹介	
国際企画課	Universal Campus Initiative - Tackling Global Issues (英語版)	不定期	H28年 3月	H26年 9月に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された本学構想「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」の英文パンフレット	
	北海道大学概要 (英語版)	年 1回	H27年11月	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載	
	Campus Guide Map (北海道大学キャンパスガイドマップ 英語版)	年 1回	H27年10月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	
	Campus Guide Map (北海道大学キャンパスガイドマップ 中国語版、韓国語版)	不定期	H27年10月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	
国際連携課	ソウルオフィス リーフレット (日本語版、韓国語版)	不定期	H28年 4月	ソウルオフィスの施設案内	
	北海道大学概要 (中国語版)	不定期	H28年 3月	中国人留学生向けの大学案内	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
事務局	国際連携課	北海道大学留学案内ガイド（韓国語版）	不定期	H28年5月	韓国人留学生向けの入学案内（発行：ソウルオフィス）
	国際教務課	Modern Japanese Studies Program (MJSP)	年1回	H28年9月	現代日本学プログラムの概要を掲載
		HANDBOOK FOR INTERNATIONAL STUDENTS	年1回	H28年8月	在学中の留学生に必要な手続き及び生活情報を提供
		Exchange Possibilities at Hokkaido Univesrity	年1回	H27年12月	本学の交換留学プログラムの紹介
		Hokkaido University Short-Term Exchange Program	年1回	H27年12月	北海道大学短期留学プログラムHUSTEPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載
		JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE STUDIES PROGRAM (JLCSP)	年1回	H27年12月	北海道大学短期留学プログラムJLCSPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載
	国際交流課	北大生のための留学ハンドブック	年1回	H28年3月	北大生のための留学情報提供誌
		RJE3リーフレット（日本語・英語・ロシア語）	不定期	H27年3月	RJE3プログラム概要
		PAREリーフレット（日本語・英語）	不定期	H27年3月	PAREプログラム概要
		PAREパンフレット（日本語）	不定期	H27年3月	PAREプログラム概要
附属図書館	北海道大学附属図書館概要	年1回	H28年6月	附属図書館のサービス、沿革、イベント等の概要を掲載	
	北海道大学附属図書館年報	年1回	H28年8月	附属図書館の活動のトピックス紹介、統計、組織、人事往来等を掲載	
	北海道大学附属図書館本館利用案内（リーフレット）日本語版	年1回	H28年4月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載	
	Hokkaido University Library Guide（リーフレット）英語版	年1回	H28年4月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載	
	北海道大学附属図書館北図書館利用案内（リーフレット）日本語版	年1回	H28年4月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載	
	北海道大学附属図書館北方資料概要	不定期	H25年3月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載	
	楡蔭（北海道大学附属図書館報）	年4回	H28年10月	学生向けに附属図書館のサービス紹介、ニュース等を掲載	
	HUSCAPレター	不定期	H26年3月	北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）掲載文献の紹介記事等を掲載	
文学研究科・文学部	北海道大学大学院文学研究科・文学部概要	年1回	H28年6月	文学部の沿革、歴代学部長、組織運営等の概要を掲載	
	北海道大学大学院文学研究科案内	年1回	H28年6月	研究科の担当教員や専攻・専修紹介、学生生活、授業内容、入試情報、進路・就職情報等を掲載	
	北海道大学文学部案内	年1回	H28年7月	学部の担当教員や履修コース紹介、学生生活、授業内容、留学情報、入試情報、進路・就職情報等を掲載	
	北海道大学文学部学外評価委員会報告書	不定期	H27年12月	外部評価報告書	
	北海道大学文学研究科紀要	年3回	H28年7月	文学研究科専任教員の研究成果を論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科研究論集	年1回	H28年1月	文学研究科大学院学生の研究成果を論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科研究叢書	年1～3回	H26年7月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の公表	
	Journal of the Graduate School of Letters	年1回	H28年3月	文学研究科教員及び大学院学生の研究成果を英文論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科ライブラリ	年2回	H28年8月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の成果、公開講座のテキストを掲載	
	北海道大学文学部リーフレット	不定期	H23年7月	受験生、一般市民向けに文学部の概要を紹介するリーフレット	
	北海道大学文学研究科 若手研究者支援リーフレット	不定期	H28年4月	文学研究科が大学院生向けに実施している独自の支援事業の概要を紹介するリーフレット	
	文学研究科紹介DVD	年1回	H27年5月	文学研究科の研究教育システム、各専修の紹介、進路情報などをまとめた映像、約8分、大学院進学説明会にて上映	
	文学部紹介DVD	年1回	H27年7月	文学部の教育システム、各コースの紹介、進路情報などをまとめた映像、約20分、オープンキャンパスにて上映	
	文学研究科大学院進学説明会配付資料	年1回	H28年6月	文学研究科の入試情報、カリキュラム、支援情報、進路情報、学位論文題目などを掲載	
	Graduate School of Letters / Faculty of Letters	不定期	H26年2月	文学研究科・文学部の海外向け英文パンフレット、文学研究科・文学部の概要をコンパクトにまとめて掲載	
	留学ガイドブック	年1回	H28年3月	部局間協定校へ留学を希望する、文学研究科・文学部の学生向けガイドブック	
	法学研究科・法学部	法学部案内 Be Ambitious	不定期	H28年6月	法学部での学生生活、学修内容や教員等の紹介
北大法学論集		年6回	H28年9月	文献の論説、資料の紹介及び判例研究を掲載	
北大法政ジャーナル		年1回	H27年12月	法学研究科修士論文の「優」に相当する論文及びリサーチペーパー	
附属高等法政教育研究センター NewsLetter j-mail		不定期	H28年9月	主催シンポジウムの報告、所属教員・研究会の研究内容等を掲載	
大志ある法曹をめざして（法科大学院パンフレット）		年1回	H28年6月	法科大学院の教育プログラム、教員の紹介、入試制度等を掲載	



部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
法学研究科・法学部	自己点検評価・外部評価報告書	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価報告書 法学研究科・法学部の外部評価報告書
	自己点検・評価報告書評価資料集	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価に関する資料集
	知的財産法政策学研究	不定期	H28年10月	知的財産法政策学研究に関する研究報告
経済学研究科・経済学部	北海道大学大学院経済学研究科・経済学部概要	年1回	H28年4月	経済学研究科・経済学部の沿革、組織、学生数、職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院経済学研究科（紹介パンフレット）	不定期	H25年4月	経済学研究科への入学を目指す方を対象に、研究科の構成、入試情報、研究内容等を紹介
	北海道大学アカウンティングスクール（紹介パンフレット）	不定期	H26年4月	経済学研究科専門職学位課程への入学を目指す方を対象に、入試情報、講義科目等を紹介
	経済学部のすべて（紹介パンフレット）	不定期	H26年4月	経済学部への入学を目指す方を対象に、学部の構成、授業科目、入試情報、学生生活等を紹介
	北海道大学経済学部点検評価報告書	4年に1回	H25年11月	学部の研究活動状況、教育活動状況等を自己点検したものを掲載
	北海道大学経済学部外部評価報告書	不定期	H26年12月	学部の研究活動状況、教育活動状況等に係る第三者評価結果を掲載
	北海道大学経済学部外部評価資料	不定期	H26年12月	学部の研究活動状況、教育活動状況等に係る第三者評価を受けるための基礎資料
	経済学研究（邦文紀要）	年2回	H28年6月	経済学研究科所属の教員・大学院生の研究論文（和文）を掲載
	地域経済・経営ネットワーク研究センター年報	年1回	H28年3月	地域経済・経営ネットワーク研究センター及び経済学研究科の研究成果を発信
医学研究科・医学部	北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科概要（日本語版）	年1回	H28年9月	医学研究科・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載
	北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科概要（英語版）	年1回	H27年12月	医学研究科・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載（英文）
	北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科広報	年4回	H28年9月	医学研究科・医学部医学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載
	北海道大学大学院医学研究科・医学部活動報告書	不定期	H16年版	点検評価（研究活動の状況、研究実績等）を掲載
	北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科紹介DVD	年1回	H28年7月	入学志願者、一般向けにカリキュラム、医学研究科・医学部医学科の特色等を紹介
	北海道大学医学部医学科案内	年1回	H28年7月	入学志願者、一般向け医学科案内
	医学とともに歩む	年1回	H28年度版	医学科専門科目シラバス
	医学とともにある学生生活	年1回	H28年度版	医学科学生便覧、規程等を掲載
	VIS-Voice of the International Students-国際連携室だより（英日バイリンガル版）	年数回程度	H28年10月	留学生（大学院生・交換留学生）、医学科学生の意見、北大と関係がある国際交流イベントの紹介・参加者の感想等を掲載
	北海道大学大学院医学院	未定	H29年度版	入学志願者、一般向け医学院修士課程・博士課程案内
	北海道大学大学院理工学院（仮称）	未定	H29年度版	入学志願者、一般向け理工学院修士課程・博士後期課程案内
	Master of Public Health (MPH) 第1期大学院生募集	年1回	H29年度版	入学志願者、一般向け医学院修士課程公衆衛生学コース案内
	北海道大学医学部保健学科案内	年1回	H28年度版	受験生向け保健学科案内
歯学研究科・歯学部	北海道大学大学院歯学研究科・歯学部概要	年1回	H28年9月	沿革、組織等、研究科・学部の概要を掲載
	北海道大学大学院歯学研究科・歯学部・歯科診療センター広報	年1回	H28年8月	行事紹介、研究活動紹介、新任教員紹介、歯科治療の紹介、学生ニュース等を掲載
	北海道大学歯学部学部紹介	年1回	H28年度版	歯学部を志願する高校生向けの学部案内
	北海道大学大学院歯学研究科紹介	年1回	H28年度版	歯学研究科の志願者向けの研究科案内
	平成28年度歯学部学部別入試入学者諸君へ	年1回	H28年3月	歯学部新入生に対する学生生活等の案内
獣医学研究科・獣医学部	光れる北を	不定期	H28年3月	獣医学部案内
	The Japanese Journal of Veterinary Research	年4回	H28年8月	欧文による研究論文の発表、広報
	北海道大学 獣医学研究科 獣医学部 概要	不定期	H26年4月	獣医学研究科・獣医学部の沿革・組織・職員数等の概要を掲載
	獣医学部附属動物病院	不定期	H27年10月	動物病院の施設・設備等診療案内
	外部評価報告書	4年に1回	H27年6月	外部評価委員による、獣医学研究科・獣医学部の施設・設備等の評価を公表
	自己点検評価報告書	4年に1回	H27年6月	獣医学研究科・獣医学部の点検・評価事項を公表
	News Letter One World - One Health 1つの世界、1つの健康の実現に向けて	年1～2回	H27年8月	リーディングプログラム広報
情報科学研究科	北海道大学大学院情報科学研究科	年1回	H28年4月	情報科学研究科の研究内容等に関する紹介
	北海道大学大学院情報科学研究科（日本語版リーフレット）	年1回	H28年4月	情報科学研究科の紹介
	北海道大学大学院情報科学研究科（英語版リーフレット）	年1回	H28年4月	情報科学研究科の紹介
	IST NEWS	年4回	H28年10月	情報科学研究科のニュースを掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
水産科学院・水産科学研究所・水産学部	北海道大学大学院水産科学研究所・水産科学院・水産学部概要	年1回	H28年度版	沿革、組織、講座等の紹介（一般向け）
	北海道大学水産学部 PR誌 aQua	不定期	H28年7月	学部、学院、各学科及び各専攻の紹介（学生向け）
	北海道大学水産学部附属練習船おしよ丸	不定期	H27年1月	附属練習船おしよ丸の概要紹介
	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸	不定期	H14年3月	附属練習船うしお丸の概要紹介
	北海道大学水産科学研究所報 (Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University)	年3回	H28年8月	英文・和文で書かれた報文、短報等をまとめたもの
	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University (北海道大学大学院水産科学研究所紀要)	年2回	H27年12月	学術的価値を有し、まとまった研究成果を公表する報文、特定分野に従来の研究を総合的にまとめた総合論文（レビュー）等を掲載
	Data Record of Oceanographic Observations and Exploratory Fishing (海洋調査漁業試験要報)	年1回	H28年3月	本学部練習船を用いて行った海洋観測、生物調査、漁業試験結果の紹介
	北海道大学水産科学研究所・水産学部の現状と課題 - 自己点検評価報告書 -	不定期	H20年3月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
	北海道大学水産科学研究所・水産学部の現状と課題 - 外部点検評価報告書 -	不定期	H20年4月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
学生寮入寮案内 - 北晨寮	不定期	H28年8月	学生寮（北晨寮）の概要・入寮手続き等を掲載（WEB版）	
環境科学院・地球環境科学研究所	北海道大学大学院環境科学院の紹介	年1回	H28年度版	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
	英文リーフレット	不定期	H28年度版	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
理学院・理学研究所・理学部	北海道大学大学院理学研究所・理学院・理学部概要	年1回	H23年度版	沿革、組織、職員数、学生数、建物案内、附属施設等の紹介
	北海道大学大学院理学研究所・理学院・理学部広報	年4回	H24年7月	研究活動・行事・シンポジウム等により、新任教員紹介、受賞関係、外国人研究者等受入関係、人事異動、教務関係行事予定等を掲載（HPにて公開）
	外部評価資料（数学・物理学・化学・生物科学・地球惑星科学専攻）	1回	H8-10年	大学院重点化に係る点検評価資料
	外部評価（数学・物理学・化学・生物科学・地球惑星科学専攻）	1回	H9-11年	大学院重点化に係る外部評価委員の評価及び提言
	北海道大学大学院理学研究所・理学院・理学部 外部評価委員会 評価報告書	不定期	H26年4月	外部評価意見書、自己点検評価書・別添資料、概要説明資料等、第二中期目標・中期計画
	理学部 学部案内	年1回	H28年度版	理学部各専攻の概要や附属施設の紹介及び卒業生の進路、意見等を掲載
	北海道大学大学院理学院数学専攻パンフレット	年1回	H28年6月	数学専攻スタッフ一覧、専門紹介、修士課程の履修について掲載
	Hokkaido Mathematical Journal (紀要)	年3回	H28年10月	研究論文
	数学科目ガイド	不定期	H25年4月	数学科の学部学生向け科目案内（全学教育科目、専門科目）
	Hokkaido University Preprint Series in Mathematics	不定期	H28年10月	研究論文速報（HPにて公開）
	Hokkaido University Technical Report Series in Mathematics	不定期	H28年8月	研究集会、特別講演等、本学で講演されたもののアブストラクト集
	北海道大学理学部数学科ガイド	年1回	H28年6月	1年生向け数学科の案内
	北海道大学理学部化学科パンフレット	不定期	H27年6月	化学科の研究室・研究内容等の紹介
	Annual Report2015 (化学専攻)	年1回	H28年7月	各研究室の研究業績・外部資金獲得状況等の紹介、各種大学院教育プログラム実績の紹介
	物理学部門年次報告書	年1回	H26年10月	部門の活動一覧、各研究グループの成果報告
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）学科案内	年1回	H28年5月	高校生・一般向け講座紹介、入学から卒業までの過程、授業内容、高校生一日入学紹介、教員名簿、卒業後の進路（過去3年間）を掲載
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）広報	年1回（漸次更新）	H28年10月	高校生・一般向け講座紹介、教員紹介、各種お知らせ、いきものがたり、生物学者列伝、入学から卒業までの過程、授業内容等を掲載（HPにて公開）
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）パンフレット	年1回	H27年7月	学科内容、研究室等の紹介
	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻専攻案内パンフレット	不定期	H25年6月	専攻内容及び各研究室研究内容メンバーの紹介
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻概要	年1回	H28年5月	専攻の組織、カリキュラム、講座紹介・教員紹介等を掲載
	北海道大学理学部地球惑星科学科パンフレット	不定期	H28年2月	学科内容の紹介、教員紹介
	北海道大学地球物理学研究報告	年1回以上	H27年3月	研究論文の発表
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座	不定期	H27年3月	ダイナミクス講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学分野	不定期	H28年3月	システム科学講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学研究所附属地震火山研究観測センター	不定期	H28年7月	学部学生を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
理学院・理学研究院・理学部	The Institute of Seismology and Volcanology Faculty of Science, Hokkaido University	不定期	H24年3月	外国人研究者及び留学生等を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター年報	年1回	H26年10月	センターとしての活動・研究活動・教育活動及び構成員名簿を掲載
薬学研究院・薬学部	生命科学の最先端へ	年1回	H28年6月	学部紹介パンフレット
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部外部点検評価報告書	不定期	H26年3月	点検評価
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部自己点検評価報告書	不定期	H25年10月	点検評価
農学院・農学研究院・農学部	北海道大学大学院農学研究院・大学院農学院・農学部概要	年1回	H28年8月	農学研究院・農学院・農学部の沿革等の概要を掲載(和文・英文併記)
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要	年2回	H28年2月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	Journal of the Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University (北海道大学大学院農学研究院欧文紀要)	年1回	H23年2月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要別冊「農経論叢」	年1回	H27年11月	農業経済に関する学術研究論文誌
	Insecta Matsumurana	年1回	H28年9月	昆虫学に関する学術研究論文誌
	農学部学部案内	不定期	H28年7月	各学科・附属施設の内容紹介(冊子)
	北海道大学大学院国際食資源学院 入学希望者向けパンフレット	年1回	H28年7月	国際食資源学院の紹介(冊子)
	北海道大学大学院先端生命科学研究院・生命科学院概要	年1回	H23年度版	沿革、組織、職員数、学生数、外部資金等を掲載
生命科学院・先端生命科学研究院	北海道大学大学院生命科学院 平成21年度外部評価委員会評価報告	不定期	H22年3月	中期計画期間終了に伴う自己点検評価及び外部評価
	北海道大学大学院先端生命科学研究院外部評価委員会 評価報告書	不定期	H26年4月	第2期中期目標・中期計画における自己点検評価及び外部評価
	北海道大学大学院生命科学院外部評価委員会 評価報告書	不定期	H26年4月	第2期中期目標・中期計画における自己点検評価及び外部評価
	北海道大学大学院先端生命科学研究院パンフレット	不定期	H26年3月	構成、研究活動、連携、支援体制、人材育成、研究室紹介
	次世代ポストゲノム研究センター	不定期	H19年9月	構成、沿革、関連研究室紹介、研究機器の説明等を掲載
	次世代ポストゲノム研究センター Annual Report 2015年度	年1回	H28年7月	研究活動、研究業績、研究資金等を掲載
	北海道大学大学院生命科学院パンフレット	年1回	H28年度版	大学院受験生への学院紹介、研究概要、入試概要、施設・設備紹介
	北海道大学大学院生命科学院 生命医薬科学コース	年1回	H28年度版	コース概要(2016-2017)
	北海道大学大学院生命科学院 生命融合科学コース パンフレット	年1回	H24年5月	コース概要
	北海道大学大学院生命科学院 生命システム科学コース	年1回	H28年度版	コース概要
教育学院・教育学研究院・教育学部	北海道大学教育学部案内	年1回	H28年度版	各研究グループの紹介、開講科目一覧、学生の声、卒業生の声、国際交流状況等を掲載
	北海道大学大学院教育学院入学案内	年1回	H28年度版	各研究グループを紹介
	北海道大学大学院教育学研究院紀要	年2回	H28年6月	研究の成果を論文として掲載
	北海道大学教職課程年報	年1回	H28年3月	北海道大学教職課程に関連した調査研究及び授業実践等に関する論文や各種資料を掲載
国際広報メディア・観光学院 メディア・コミュニケーション研究院	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内	年1回	H28年4月	学院の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内 英語版	年1回	H27年4月	学院の沿革、組織、職員数等の概要を掲載(英語版)
	国際広報メディア・観光学ジャーナル	年2回	H28年9月	教員の教育・研究成果の公表、博士後期課程学生の研究発表
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻	不定期	H22年4月	観光創造専攻の紹介
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻(リーフレット)	年1回	H28年度版	学院の紹介、入試日程概要
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻(リーフレット) 中国語版	年1回	H28年度版	学院の紹介、入試日程概要(中国語版)
	メディア・コミュニケーション研究	年2回	H28年3月	教員の研究報告
	大学院メディア・コミュニケーション研究院研究叢書	年2回	H20年3月	教員の研究報告
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年3月	自己点検・評価報告、外部評価報告
保健科学院・保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科概要	年1回	H28年度版	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載(英文併記)
	北海道大学大学院保健科学研究院広報「プラテュス」	年2回	H28年3月	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載



部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
保健科学院・保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻案内	隔年	H28年度版	受験生向け専攻案内
	北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科FDワークショップ報告書	年1回	H28年3月	保健科学院・医学部保健学科で実施したFDワークショップの報告書（メール配信）
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院（医学部保健学科）年報	年1回	H28年10月	沿革，組織，研究活動，教育活動等を掲載（CD-ROM）
	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド	不定期	H27年6月	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド（日本語版，英語版）
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学大学院工学研究院・工学院・工学部概要（和文・英文）	年1回	H28年度版	沿革，組織，職員数等，工学研究院・工学院・工学部の概要を掲載
	北海道大学大学院工学研究院・工学院広報誌「えんじにあRing」	年4回	H28年10月	工学研究院・工学院の研究紹介，ニュース等を掲載
	北海道大学工学系教育研究センター平成27年度活動報告書および外部評価報告書	隔年	H28年3月	工学系教育研究センターの報告書（活動，外部評価）
	北海道大学工学系教育研究センター平成26年度活動報告書	隔年	H27年3月	工学系教育研究センターの報告書（活動）
	北海道大学総合若手人材育成事業 平成27年度活動報告書および外部評価報告書	隔年	H28年3月	人材育成本部と実施している総合若手人材育成事業の報告書（活動，外部評価）
	北海道大学工学系教育研究センターリーフレット（和文／英文併記）	不定期	H26年7月	工学系教育研究センターの紹介
	北大CEED（工学系教育研究センター）eラーニングのご案内（和文・英文）	不定期	H28年4月	工学系教育研究センターeラーニングシステム開発部で提供しているeラーニングに関する紹介，視聴方法等案内，多言語化への取組
	北大工学部のすべて（学部紹介パンフレット）	隔年	H28年4月	工学部への入学を目指す高校生を対象に，工学部の概要，特に4学科15コースの内容を中心に紹介
	Girls, Be ambitious!	不定期	H28年3月	工学部への入学を目指す女子学生を対象に，工学部を紹介するパンフレット
	就職に強い！工学部	不定期	H27年9月	工学部・工学系大学院の就職状況を紹介
	北海道大学工学院英語特別コースパンフレット（英文）	不定期	H27年8月	工学分野リーダー育成英語特別コース（e3）の概要紹介
	北海道大学工学部 情報エレクトロニクス学科（パンフレット）	年1回	H28年4月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	E.O	不定期	H27年11月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターパンフレット（和文・英文）	隔年	H28年8月	センターの沿革，組織，研究内容，業績等統計を掲載
	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター年報	年1回	H28年9月	センターの機構・組織，研究内容，研究成果を掲載
北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターマルチビーム超高圧電子顕微鏡室（パンフレット）	不定期	H28年8月	超高圧電子顕微鏡及び周辺機器の仕様，研究例，沿革等を掲載	
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院概要（英語併記）	不定期	H26年8月	沿革，組織，総合化学院の概要，研究室紹介等を掲載
	北海道大学大学院総合化学院自己点検評価書	不定期	H26年11月	総合化学院創設から5年間の自己点検評価を掲載
	北海道大学大学院総合化学院外部点検評価書	不定期	H27年2月	H27年2月開催の外部中間評価概要，評価資料，外部委員による評価
	年次報告書（アニュアルレポート）	年1回	H27年度版	総合化学院の特色ある教育活動，学生状況，分野（研究室）の教育研究活動を掲載
	北海道大学大学院総合化学院紹介ポスター（パネル）	不定期	H27年4月	総合化学院の概要等を紹介
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部	Hokkaido University Public Policy School	年1回	H28年4月	公共政策大学院の教育プログラム，教員の紹介，入試制度等を掲載
	外部評価委員会評価報告書	不定期	H26年3月	公共政策学連携研究部・教育部の外部評価報告書
北海道大学病院	北海道大学病院概要	年1回	H28年度版	診療実績等の概要を掲載
	北海道大学病院 初期医師臨床研修プログラム	年1回	H28年度版	医師臨床研修プログラムを掲載（H18年度版よりパンフレット形式）
	北海道大学病院 歯科医師臨床研修プログラム	年1回	H28年度版	歯科医師臨床研修プログラムを掲載
	北海道大学病院 地域医療連携福祉センター ニュースレター	年2回	H28年5月	各診療科外来診療等紹介や院内の最新情報等を掲載
	北海道大学 臨床研修センター Resident NEWS letter「AMBITION」	年4回	H28年9月	当院医師臨床研修に係る最新情報を掲載
	北海道大学病院 腫瘍センターNEWS	年2回	H27年6月	腫瘍センターの活動やがん診療に関する情報を掲載
	北海道大学病院 看護部キャリア支援室 だより「つながり」	年3回	H28年6月	当院看護師の研修に係る最新情報等を掲載
	北大病院 薬剤部NEWS	年4回	H28年9月	薬剤師業務及び医薬品に係る情報を掲載
	北海道大学病院 臨床研究開発センター News	年12回	H28年10月	臨床研究開発センターに係る情報を掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所概要	隔年	H26年7月	研究所の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学低温科学研究所紹介DVD(日本語版・英語版)	1回	H12年3月	研究所の研究内容等を紹介
	北海道大学低温科学研究所年次自己点検評価報告書-年報-	年1回	H28年9月	研究所の活動状況、研究成果、自己点検評価の結果を掲載(年報)
	北海道大学低温科学研究所外部点検評価報告書	不定期	H25年3月	研究所の組織及び運営、教員人事、研究活動、大学院教育及び社会教育等の外部評価を掲載
	低温研ニュース	年2回	H28年6月	研究紹介、シンポジウム報告、共同研究、人事異動等を掲載
	環オホーツク観測研究センターリーフレット(日本語版・英語版)	不定期	H26年9月	環オホーツク観測研究センターの研究内容を紹介
	研究所で学びたい学生のための低温科学研究ガイド[分野別ピックアップ]	不定期	H23年7月	研究所の研究内容を紹介
北海道大学低温科学研究所[ダイジェストガイド]	不定期	H23年11月	研究所の歴史、最新の研究内容、組織を紹介	
電子科学研究所	北海道大学電子科学研究所(概要)	隔年	H24年7月	研究所の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学電子科学研究所(パンフレット)	不定期	H26年3月	学生向け研究所案内
	研究活動-点検評価報告書-	年1回	H28年6月	研究所の研究成果・活動、国際交流、教育活動等を掲載
	外部評価報告書	不定期	H27年1月	研究所の外部評価の状況の取り纏めを掲載
遺伝子病制御研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所概要	隔年	H26年12月	目的と使命、沿革、歴代所長・施設長及び名誉教授、機構、職員・学生、研究活動、附属施設、教育活動、代表論文、北海道大学配置図を掲載
	北海道大学遺伝子病制御研究所年報	年1回	H28年1月	総論、機構、管理運営、社会貢献、附属施設、予算規模等、研究成果、教育活動、共同利用・共同研究拠点、研究活動、施設・設備、各種委員会等を掲載
	北海道大学遺伝子病制御研究所外部評価報告書	不定期	H26年8月	理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点、附属施設、各分野における研究概要と成果等を掲載
	IGM News Letter	年3回	H28年3月	トピックス、お知らせ、研究業績紹介、新任教員紹介、新講座開設等を掲載
触媒科学研究所	触媒化学研究センター外部点検評価報告書	不定期	H25年3月	センター外の委員で組織された委員会による点検評価報告
	触媒科学研究所概要	年1回	H28年5月	研究所の沿革、組織、研究概要を掲載(英文併記)
	触媒科学研究所年報	年1回	H28年10月	沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
スラブ・ユーラシア研究センター	SLAVIC RESEARCH CENTER HOKKAIDO UNIVERSITY(概要)	不定期	H28年10月	センターの沿革、組織、職員紹介、研究活動等を掲載
	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターニュース	年4回	H28年8月	センターの最新の研究・行事・人事等の活動状況を掲載
	スラブ・ユーラシア研究センターを研究する(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター点検評価報告書)	不定期	H26年8月	センターの自己点検評価報告、外部評価報告、活動記録報告
	ACTA SLAVICA IAPONICA(欧文学術雑誌)	年2回	H28年5月	投稿論文を欧文で掲載(レフェリー制)
	スラヴ研究(和文学術雑誌)	年1回	H28年6月	投稿論文を和文で掲載(レフェリー制)
	スラブ・ユーラシア研究報告集	不定期	H27年3月	研究報告会等での報告抄録等を掲載
	Slavic Research Center News	年1回	H28年3月	センターの研究・行事・人事等の活動状況を欧文で掲載
	Slavic Eurasian Studies(欧文論集)	不定期	H28年3月	シンポジウムのペーパー等を欧文で掲載
	Eurasia Border Review	年2回	H27年11月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する報告抄録等を掲載
	境界研究	年1回	H28年3月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する投稿論文を和文で掲載(レフェリー制)
	スラブ研究センター・レポート	不定期	H23年3月	研究報告会等での報告抄録等を掲載(WEB版)
	スラブ・ユーラシア研究者名簿	不定期	H24年3月	スラブ・ユーラシア地域研究者の名簿
	スラブ・ユーラシア研究センター(SRC)メールマガジン	月1回	H28年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載
	情報基盤センター	情報基盤センター外部評価報告書	不定期	H27年3月
情報基盤センター概要		年1回	H28年9月	センターの沿革、組織、研究概要を掲載
情報基盤センター概要(英語版)		隔年	H28年10月	センターの沿革、組織、研究概要を英文で掲載
情報基盤センター年報		年1回	H27年11月	センターの沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
大型計算機システム(iiC-HPC)ニュース		年4回	H28年10月	大型計算機システムに関する情報提供
HINES-WORLD		不定期	H25年4月	情報ネットワーク利用案内
人獣共通感染症リサーチセンター	北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター(日本語・英語版)	年1回以上	H27年10月	人獣共通感染症リサーチセンターの概要を掲載
	人獣共通感染症リサーチセンター年報	年1回	H27年3月	センターの概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載
	外部評価報告書	6年に1回	H27年3月	外部評価委員による、人獣共通感染症リサーチセンターの研究業績・施設・設備等の評価を公表

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
人獣共通感染症リサーチセンター	自己点検評価報告書	6年に1回	H27年3月	人獣共通感染症リサーチセンターの点検・評価事項を公表
アイソトープ総合センター	センター概要	不定期	H25年11月	センターの施設案内、沿革等を掲載
	アイソトープ総合センター利用案内	隔年	H28年3月	センターの利用に関する規程等、利用に関する情報をわかりやすく掲載
	北海道大学アイソトープ総合センター自己点検・評価報告書	年1回	H28年7月	センターの利用状況、共同研究一覧、活動報告等を掲載
量子集積エレクトロニクス研究センター	センターニュース (CIS NEWS)	年1回	H28年3月	センターの最新機器の紹介、講義、講習会のお知らせ等のニュースを掲載
	北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター (概要・和文)	不定期	H24年10月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載
	北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター (概要・英文)	不定期	H24年10月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載
	量子集積エレクトロニクス研究 (研究報告)	年1回	H28年6月第15巻	センターの研究目的、組織、研究内容、施設・設備と、研究活動及び研究成果の報告
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	自己点検評価書 (Web版)	年1回	H26年7月	研究・教育活動成果に基づく自己点検評価書 (Web版)
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター概要	不定期	H27年2月	沿革、組織、研究内容等の概要を掲載
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター年報	年1回	H28年2月	各施設の教育・研究動向、職員の研究業績一覧、施設の利用状況等を掲載
森林圏ステーション	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター News Letter	年複数回	H28年9月	センターの活動紹介、イベントなどのお知らせ、ショートエッセイ等を掲載
	演習林研究報告	年2回	H27年3月	森林科学関連分野及び森林圏ステーション関連の研究論文 (和文) を掲載。国内外の関係機関等にも送付
	Eurasian Journal of Forest Research	年2回	H27年12月	「演習林研究報告」の英語論文分冊。国内外の関係機関等にも送付
	森林圏ステーション年度報告	年1回	H28年2月	森林圏ステーション管理面の資料を掲載
	北方森林保全技術	年1回	H28年2月	森林圏ステーション技術系職員が試験年報報告会で発表した論文等を掲載。国内の関係機関等にも送付
	森林圏ステーション概要	不定期	H16年9月	施設の紹介
耕地面積ステーション	北海道大学生物生産研究農場概要	不定期	H14年9月	農場の沿革、部門紹介、組織等の概要を掲載
	北海道大学生物生産研究農場研究報告	隔年	H17年12月	農場を利用した研究の報告
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地面積ステーション生物生産研究農場 (概要パンフレット)	不定期	H14年3月	農場の沿革、組織等の概要を掲載
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地面積ステーション生物生産研究農場余市果樹園 (リーフレット)	不定期	H16年1月	余市果樹園の解説
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告	年1回	H21年3月	農場における圃場管理や家畜飼養に関する技術業務を掲載
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 (概要パンフレット) 英語併記	不定期	H27年2月	植物園の沿革、組織等の概要を掲載
	植物園だより (リーフレット)	年6回	H28年10月	園内見どころの解説
	北海道大学植物園 (リーフレット) 日本語版	年1回	H28年7月	植物園内の解説
	北海道大学植物園 (リーフレット) 英語版	年1回	H27年4月	植物園内の解説
	北海道大学植物園 (リーフレット) 中国語版	年1回	H28年7月	植物園内の解説
	北海道大学植物園 (リーフレット) 韓国語版	年1回	H28年7月	植物園内の解説
	北大植物園技術報告・年次報告	年1回	H27年3月	植物園の活動内容
	MIYABEA sive Illustrated Flora of Hokkaido	不定期	H11年10月	研究報告
	北大植物園研究紀要	年1回	H27年12月	研究報告
北大植物園資料目録	不定期	H28年2月	資料目録	
水圏ステーション	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場研究報告	不定期	H13年3月	牧場を利用した研究の報告
	全国大学水産実験所要覧	不定期	H18年10月	施設の概要、地域の環境、教育・研究活動、交通、職員、利用手続きを掲載
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション室蘭臨海実験所概要	不定期	H11年4月	施設の概要 (施設紹介、沿革、利用方法、所在地、研究内容等)
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション室蘭臨海実験所要覧	不定期	H19年4月	施設の要覧 (施設紹介、沿革、研究内容、所員名、出版物、施設設備、利用方法等)
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所報告	不定期	H19年3月	所員及び研究目録、業績目録、科学研究費等補助金、利用者リスト及び研究、利用状況、利用者業績目録、教育・社会教育活動、気象・海洋観測データ (各内容を英語及び日本語で掲載)



部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
観光学高等研究センター	北海道大学観光学高等研究センター	不定期	H28年4月	観光学高等研究センターの紹介
アイヌ・先住民研究センター	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット日本語版)	不定期	H28年8月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを日本語で紹介
	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット英語版)	不定期	H28年9月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを英語で紹介
	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット中国語版)	不定期	H28年9月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを中国語で紹介
	日本国憲法と先住民族であるアイヌの人びと (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット1号)	不定期	H25年2月	アイヌ・先住民研究センターが2011年10月に主催した講演会の講演内容を紹介
	トンコリの世界 (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット2号)	不定期	H26年3月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介
	The Ainu: Indigenous People of Japan (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット3号)	不定期	H26年6月	ワシントンD.C.での国際シンポジウムにおける報告をまとめ、現代のアイヌ民族の活動等を海外に向けて英文で紹介
	花とイナウー世界の中のアイヌ文化ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット4号)	不定期	H27年3月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介
	台湾の原住民族政策ー民族認定と博物館ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット5号)	不定期	H27年4月	アイヌ・先住民研究センターが2012年と2014年に主催した台湾の原住民族政策に関するシンポジウムの講演内容を紹介
	古川アシンノカルの生涯ー新冠地方の故事と伝承ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット6号)	不定期	H28年3月	北海道日高郡新ひだか町在住の狩野義美氏が書き記した文章の中から大叔父の古川アシンノカル氏らに係るものを集成
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識	不定期	H24年1月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査 (アンケート調査) に関する報告書
	2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容	不定期	H24年3月	アイヌ・先住民研究センターが2009年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査 (インタビュー調査) に関する報告書
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識の多様性	不定期	H26年3月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査の結果を再分析した報告書
	2014年アイヌ民族多住地域住民調査報告書 地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係	不定期	H27年9月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に札幌市とむかわ町で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書
	Report on the 2008 Hokkaido Ainu Living Conditions Survey	不定期	H22年3月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査に関する報告書の英語版
	沖縄におけるガイドツアーの運営実態に関する事例調査	不定期	H23年3月	アイヌ・先住民研究センターがエコツーリズム・プロジェクトの一環として実施した事例調査の報告書
	世界のなかのアイヌ・アート	不定期	H27年3月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民族アートプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	先住民族アート・プロジェクト報告書 アイヌ・アートが担う新たな役割ー米国先住民アートショーに学ぶ	不定期	H27年3月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に国立民族学博物館との共催で開催した国際シンポジウムの記録
	先住民文化遺産とツーリズムーアイヌ民族における文化遺産活用の理論と実践	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	Indigenous Heritage and Tourism-Theories and Practices on Utilizing the Ainu Heritage-	不定期	H26年1月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書の英語版
	teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料ー受けつぐ技ー	不定期	H21年2月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録
	teetasinrit tekrukoci -The Handprints of our Ancestors- Ainu Artifacts Housed at Hokkaido University-Inherited Techniques	不定期	H21年3月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録の英語版
	北海道新冠地方におけるアイヌ語地名の調査と分析	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが2013年から2015年に行ったアイヌ語地名調査の成果報告
	にかほ市象潟郷土資料館所蔵森家旧蔵「蝦夷方言藻汐草 全」翻刻・解題	不定期	H25年3月	アイヌ・先住民研究センターが2012年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所蔵 田藩文庫旧蔵「東蝦夷彙考」翻刻・解題	不定期	H26年3月	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所蔵の和文写本の概要を日本で初めて紹介	
藤山ハル口述・村崎恭子採録・著 樺太アイヌ語例文集 (1)	不定期	H25年3月	アイヌ・先住民研究センターが2015年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書	
和田文治郎 樺太アイヌ説話集3	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが2012年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書	
アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究 (5)	不定期	H27年3月	アイヌ・先住民研究センターが2015年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
アイヌ・先住民研究センター	アイヌ語十勝方言例文集1	不定期	H26年3月	アイヌ語十勝方言の研究に際して基礎となる例文を提示し、言語学的研究の一助とする目的で日常語例文を取録
	アイヌ語厚別方言語彙集	不定期	H27年3月	北海道日高町豊田に在住した松島トミ氏によるアイヌ語語彙と例文の記録
	アイヌ語十勝方言会話小辞典	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが行ったアイヌ語十勝方言の言語調査で得られた資料を意味分類に従って配列したもの
	富田友子採録・採譜・解説 西平ウメ伝承 トンコリ楽曲集	不定期	H24年3月	アイヌの伝統楽器トンコリ（五弦琴）の教則本としても使えるよう、伝承曲を楽譜にして紹介
社会科学実験研究センター	北海道大学社会科学実験研究センター自己点検評価	年1回	H28年6月	社会科学実験研究センターの概要、教育研究活動の実績、組織構成を掲載（HPよりダウンロード可能）
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）	不定期	H22年3月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）英語版	不定期	H27年8月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介
環境健康科学研究教育センター	北海道大学環境健康科学研究教育センター年報	隔年	H28年3月	環境健康科学研究教育センターの概要、部門報告、業績一覧、委員会名簿等を掲載
脳科学研究教育センター	北海道大学脳科学研究教育センター概要	年1回	H28年3月	センターの組織、発達脳科学専攻（バーチャル専攻）の概要等を掲載
外国語教育センター	HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR LANGUAGE LEARNING	不定期	H21年4月	外国語教育センターの紹介
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年3月	自己点検・評価報告、外部評価報告
総合博物館	第1期学術資料展示パンフレット（アイランド・アーク）	1回	H14年3月	第1期学術資料展示の概要及び展示学術標本資料を詳細に紹介
	重要文化財札幌農学校第2農場パンフレット（見学者配付用資料）	1回	H27年度	重要文化財札幌農学校第2農場を見学者に紹介
	Where northern land and ocean meet Island Arc -Rocks, Minerals, Ore Deposits, Fossils, Strata, and Their History-	1回	H16年3月	第1期学術資料展示パンフレット（アイランド・アーク）の英語版
	総合博物館展示リーフレット（見学者配付用資料）	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介
	An Introduction to The Hokkaido University Museum	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介（リーフレット）
	北海道大学総合博物館概要	年1回	H24年度版	博物館の目的・沿革・組織・教育研究活動内容等を掲載
	北大歴史展示概要（英語版・中国語版・韓国語版）	1回	H15年度	北大歴史展示の概要
	北海道大学総合博物館外部点検評価報告書（2010）	不定期	H23年3月	外部点検評価委員会による総合博物館の評価
	北海道大学総合博物館点検評価報告書（2004-2006年度）	1回	H19年7月	北海道大学総合博物館点検評価委員会委員による総合博物館の評価
	北海道大学総合博物館研究報告	年1回	H28年3月	研究報告 No.1（2003.3）、No.2（2004）、No.3（2006）、No.4（2008.3）、No.5（2009.12）、No.6（2013.3）、No.7（2014.3）、No.8（2016.3）
	北海道大学総合博物館年報	年1回	H24年1月	博物館及び博物館教員の活動記録 H16年度（2004.1.31）H18・19年度（2006.12.1） H20・21年度（2012.3.1）H22・23年度（2013.1.1）
	北海道大学総合博物館ニュース	年2回	H28年6月	博物館の活動状況・出来事・ニュース・特別寄稿等を掲載 No.1（1999.7）-33（2016.6）
	北大理学部教授室N123 中谷宇吉郎研究室	1回	H16年3月	「北大理学部教授室N123 中谷宇吉郎研究室」復元展示の図録
	北海道大学キャンパス 台風18号の爪痕	1回	H16年12月	平成16年9月8日の台風18号襲来直後の北大札幌キャンパスにおける被害状況の記録
	北海道大学の学問の系譜 - 北大派の学風 -	1回	H17年3月	北大派をつくった研究者たちを紹介
	北海道大学に通底する精神と教育思想の歴史	1回	H17年6月	札幌農学校時代から現在に至るまで北海道大学に通底する精神・教育思想の歴史を紹介
	エコキャンパス読本<改訂版> - 植物篇 付・鳥類リスト -	1回	H21年3月	北大キャンパスで見られる植物を紹介
	北大エコキャンパス読本<改訂版> - 考古学編 -	1回	H23年3月	遺跡群から見た北大キャンパス周辺域の歴史
	北大エコキャンパス読本 - 植物園編 -	1回	H22年2月	北大植物園で見られる植物を紹介
	北大エコキャンパス読本 - 建築遺産編 -	1回	H23年3月	北大キャンパスの歴史や歴史的建物、建築に関わった人々について一端を紹介

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
総合博物館	バラタクソノミスト養成講座・ガイドブック	12回	H21年3月～H25年3月	バラタクソノミスト養成講座の教材 シリーズ1：昆虫（初級）採集・標本作製編 シリーズ2：きのこ（初級・中級）ハラタケ目編 シリーズ3：DNA（初級）編 シリーズ4：植物（初級）採取・標本作製編 シリーズ5：土器（初級）土器の観察・記録編 シリーズ6：土壌ダニ（初級・中級）採取・標本作製編 シリーズ7：鉄器の観察・記録・保存法（初級）編 シリーズ8：マルハナバチ属昆虫（中級）編 シリーズ9：石器（初級）編 シリーズ10：鉱床（中級）鉱床鉱物の観察・同定編 シリーズ11：昆虫（初級）目までの分類と同定編 シリーズ12：岩石（初級）編
	Guidebook：Museum Meister Course, The Hokkaido University Museum	年1回	H28年度版	総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの案内
	魚類の多様性	1回	H16年2月	第5回企画展示「魚類の多様性－5億年の進化の歴史－」の図録
	きのこの自然史	1回	H16年3月	第7回企画展示「きのこの自然史」の図録
	内田正練とその時代	1回	H17年4月	第20回企画展示「内田正練とその時代－日本にクローラがもたらされた頃－」の図録
	北大樺太研究の系譜 サハリンの過去・現在・未来	1回	H18年6月	第30回企画展示 北海道大学創基130周年記念企画展示「北大樺太研究の系譜～サハリンの過去・現在・未来～」の図録
	北海道大学の山小屋	1回	H18年5月	第33回企画展示 北海道大学創基130周年記念企画展示「北大の山小屋展」の図録
	モンゴル大恐竜 ゴビ砂漠の大恐竜と鳥類の進化	1回	H18年7月	第35回企画展示「モンゴルの恐竜－大型恐竜と鳥類の進化－」の図録
	北大千島研究の系譜 千島列島の過去・現在・未来	1回	H19年2月	第43回企画展示 北海道大学創基130周年記念企画展示「北大千島研究の系譜～千島列島の過去・現在・未来～」の図録
	『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画 フェアブルにまなぶ	1回	H19年6月	第46回企画展示 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」の図録
	『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画 フェアブルにまなぶ プチガイド	1回	H19年7月	第46回企画展示 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」の子供向けガイド
	水産科学館分館化・水産学部創基100周年 記念 水産科学館に蓄積された水産学部100 年の歴史	1回	H20年3月	第52回企画展示「水産科学館分館化・水産学部創基100周年記念 水産科学館に蓄積された水産学部100年の歴史」の図録
	ライマンと北海道の地質 －北からの日本地質学の夜明け－	1回	H20年8月	第57回企画展示「ライマンと北海道の地質」の図録
	洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源 Environment and Resources of Lake Toya and Usu Volcano Area	1回	H20年6月	第58回企画展示 2008年G8洞爺湖サミット関連「洞爺湖・有珠火山地域の環境と資源」の図録
	カレル・チャペック その生涯と時代 没後 70周年展 1890-1938	1回	H20年10月	第60回企画展示「カレル・チャペック 1890-1938 その生涯と時代 没後70周年展」の図録
	teetasinrit tekrukoci 先人の手あと と北大所蔵アイヌ資料－受けつぐ技－	1回	H21年2月	第63回企画展示「teetasinrit tekrukoci」の図録
	北大分類学の系譜	1回	H21年8月	第65回企画展示「生物多様な部屋」の図録
	TOYOJI HIKITA Photo Exhibition	1回	H21年10月	第66回企画展示「正田豊治ガラス乾板写真展」の図録
	マキシモヴィッチ・長之助・宮部	1回	H22年3月	第69回企画展示「花の白露交流史－幕末の箱館山を見た男」の図録
	わが街の文化遺産 札幌軟石	1回	H23年3月	第70回企画展示「わが街の文化遺産 札幌軟石 歩いた！探した！見つけた！」の図録
	アラスカの恐竜	1回	H22年7月	第71回企画展示「アラスカの恐竜－アジアをめざした生命」の図録
	豊平川と私たち	1回	H23年3月	第73回企画展示「豊平川と私たち－その生いたちと自然」の図録
	「チョウとガ」が超わかる本	1回	H23年6月	第76回企画展示 レビドプテラ「空を舞う昆虫たち－チョウとガの世界」プチガイド
	クラーク博士と札幌の植物	1回	H24年3月	第77回企画展示「クラーク博士と札幌の植物」の図録
	川嶋昭二先生 海藻画作品集	1回	H24年7月	企画展示「藻類が人類の未来を救う」図録別冊
	ワニと恐竜の共存 巨大ワニと恐竜の世界	1回	H25年7月	企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」解説書
大学図書館	北海道大学大学図書館年報	年1回	H28年3月	研究論文、資料紹介・目録、業務記録等を掲載
	北海道大学大学図書館資料叢書	不定期	H22年3月	資料翻刻、解説等を掲載
	北海道大学大学図書館リーフレット	不定期	H28年6月	大学図書館の概要、所蔵資料の紹介、利用に関する案内等を掲載
	北海道大学大学図書館利用案内	不定期	H28年6月	大学図書館の利用に関する案内を掲載
埋蔵文化財調査センター	北海道大学埋蔵文化財調査センター ニュースレター	年3回	H28年10月	構内の遺跡、埋蔵文化財調査センターの活動内容を紹介
	北大構内の遺跡	年1回	H28年3月	北大構内（札幌キャンパス）における埋蔵文化財の調査報告



部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
人材育成本部	上級人材育成ステーション S-cubic	不定期	H28年3月	S-cubicの事業紹介
	S-cubic	不定期	H28年3月	DC・PDを対象とした進路選択のガイドブック
	I-HoP	不定期	H28年2月	外国人英語コース博士のためのキャリアマネジメントガイド
	連携型博士研究人材育成推進室	不定期	H28年6月	コンソーシアム事業の紹介
女性研究者支援室	女性研究者支援室FResHU リーフレット	不定期	H27年10月	女性研究者支援室の紹介
創成研究機構	創成ニューズレター CRIS TIMES	不定期	H27年3月	創成研究機構の活動紹介
	北海道大学 創成研究機構	不定期	H28年1月	創成研究機構の組織紹介
	北海道大学 創成研究機構 (DVD)	不定期	H23年9月	創成研究機構の紹介DVD (改訂版)
	Creative Research Institution	不定期	H23年10月	創成研究機構の紹介DVD (英語・改訂版)
	北大を特徴づける研究機関 創成研究機構 構成組織	不定期	H25年10月	創成研究機構各構成組織の紹介及び研究・活動内容の紹介
	ACADEMIC FANTASISTA 国民との科学・技術対話事業	不定期	H27年3月	北海道大学における「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業の紹介
	Strategy for Making Innovation 理の社会実装を目指して	不定期	H27年10月	北海道大学の研究者の紹介と、産学・地域協働を支えるシステムの紹介
	Reach アウトリーチイベントのつくりかた ハンドブック	不定期	H28年3月	教職員を対象としたアウトリーチのイベント企画のためのハンドブック
	原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム	不定期	H28年8月	文部科学省：先端研究基盤共用促進事業（共用プラットフォーム形成支援プログラム）「原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム」事業の紹介及び利用募集
	同位体顕微鏡	不定期	H25年4月	文部科学省：先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業「安定同位元素イメージング技術による産業イノベーション」事業における坂本教授のインタビュー（リテラボプリ29号を元に作成）
	オープンファシリティ	不定期	H28年1月	創成研究機構オープンファシリティの紹介
	オープンファシリティプラットフォーム	不定期	H28年6月	オープンファシリティプラットフォームの紹介
	Global Facility Center Hokkaido University	不定期	H28年8月	グローバルファシリティセンターの紹介
	グローバルファシリティセンター (リーフレット)	不定期	H28年9月	グローバルファシリティセンターの紹介
	オープンファシリティ料金表 学外利用者用	不定期	H28年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧
	先端技術のオープンステーション 北海道大学 オープンファシリティ	不定期	H27年5月	オープンファシリティの紹介DVD（日本語版）
	Cutting-edge Open Station Hokkaido University Open Facility	不定期	H27年5月	オープンファシリティの紹介DVD（英語版）
	オープンファシリティシンポジウム報告書	年1回	H28年3月	オープンファシリティシンポジウム開催報告
	オープンファシリティ利用者説明会&見学会	年1回	H28年7月	オープンファシリティ利用者説明会・見学会の紹介
	北海道大学創成研究機構 グローバルファシリティセンター 機器分析受託部門	不定期	H28年4月	グローバルファシリティセンター機器分析受託部門の紹介（日本語版）
Instrumental Analysis Division, Global Facility Center, Creative Research Institution, Hokkaido University	不定期	H28年4月	グローバルファシリティセンター機器分析受託部門の紹介（英語版）	
機器分析受託サービス利用説明会	年1回	H28年10月	機器分析受託サービス利用説明会の紹介	
次世代研究基盤戦略	不定期	H28年9月	文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（新たな共用システム導入支援プログラム）」の紹介	
高等教育推進機構	高等教育ジャーナル －高等教育と生涯学習－	年1回	H28年3月	広く高等教育に関する論文・報告等を公開
	ニュースレター	年3回	H28年10月	高等教育推進機構の活動を報告
	ラーニングサポート室リーフレット	年1回	H28年4月	ラーニングサポート室の利用に関する案内
	アカデミック・マップ	年1回	H28年4月	進級、学部移行の参考として各学部学科等の研究内容等を掲載
	ラーニングサポートレター	年4回	H28年10月	初年次学生の修学状況とラーニングサポート室で実施する学習サポートやセミナーの利用状況を掲載
	北海道大学オープンエデュケーションセンター活動報告書	年1回	H28年3月	北海道大学オープンエデュケーションセンターの活動報告書
	北海道大学オープンエデュケーションセンターリーフレット	不定期	H27年4月	学内の教職員を対象にオープンエデュケーションセンターの活動内容を紹介
	北海道大学オープンエデュケーションセンターフライヤー	年1回	H28年4月	新入学生向けに、北海道大学オープンコースウェア及びオープンエデュケーションセンターに関する案内を掲載
	2015年度北海道地区国立大学教養教育連携委託事業活動報告書	年1回	H28年3月	北海道大学オープンエデュケーションセンター（委託事業）の活動報告書
	教育情報システム (ELMS) リーフレット	年1回	H28年4月	教育情報システム (ELMS) の利用案内を掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版 発行年月	掲載内容等
高等教育推進機構	CoSTEPリーフレット	年1回	H28年3月	CoSTEPの活動を紹介
	いいね!Hokudai	週4回	H28年10月	北大の日々を紹介するWebマガジン
	CoSTEP PR	不定期	H28年10月	スタッフや受講生の日常を紹介
サステイナブルキャンパス推進本部	Sustainable Initiative 持続可能な社会への大志	不定期	H25年3月	サステイナブルキャンパス推進本部発足の経緯、組織概要、業務内容、大学の目指すサステイナブルキャンパスの概念について掲載
	いいキャンパスとは？環境報告書 Sustainability Report2016 サステイナブル キャンパスをめざして	年1回	H28年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2015年度の環境に関連する教育研究活動やエネルギー・水等の使用量の状況を掲載
	What is a Good Campus? Sustainability Report2016 Toward a Sustainable Campus (英語版)	年1回	H28年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した報告書
	News Letter Vol. 2	年1回以上	H27年6月	最近のサステイナブルキャンパス推進本部の活動の紹介
	News Letter Vol. 2 (英語版)	年1回以上	H27年6月	最近のサステイナブルキャンパス推進本部の活動の紹介
産学・地域協働推進機構	産学官連携の手引き	年1回	H27年8月	産学・地域協働推進機構の業務内容説明及び産学官連携のための案内
	産学・地域協働推進機構パンフレット	年1回	H28年4月	産学・地域協働推進機構の概要紹介
	北海道大学 研究シーズ集Vol.3	年1回	H28年3月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介
	フード&メディカルイノベーション国際 拠点パンフレット	不定期	H28年10月	フード&メディカルイノベーション国際拠点(FMI国際拠点)の紹介
	「食と健康の達人」拠点パンフレット	不定期	H28年4月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点の活動紹介
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン 「live (ライブ)」	年6回	H28年9月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が地域と課題、情報を共有するフリーペーパー
国際教育研究センター	北海道大学留学生センター年報	年1回	H26年3月	日本語教育部・留学生指導部・短期留学部活動報告、授業実施報告、留学生センター研修事業等を掲載
	北海道大学留学生センター紀要	年1回	H27年12月	研究論文、研究ノート、実践報告
	北海道大学国際本部留学生センターブ ックレット	不定期	H27年9月	留学生と日本人学生がともに学ぶ「多文化交流科目」を考える
国際連携研究教育局	GI-CoRE概要(英語・日本語表記)	不定期	H28年4月	国際連携研究教育局の概要、各グローバルステーション(量子、人獣、食水土、ソフトマター、ビッグデータ、北極域)の紹介

(総務企画部広報課)

## 編集メモ

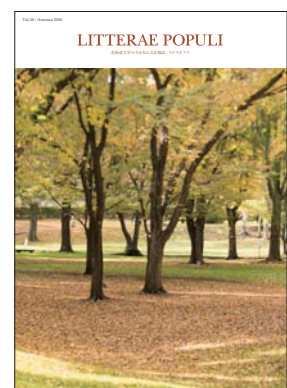
---

●札幌では、11月上旬に20cmを超える積雪があり、キャンパス内もこの時期としては珍しい雪景色となりました。

●広報誌「リテラポプリ」58号を発行しました。

特集ページでは“つながり”をテーマに、「Hokkaidoサマー・インスティテュート」「『食と健康の達人』拠点」「埋蔵文化財調査センター」を取り上げています。

◆ <http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>







2016.11.6 函館本線 ニセコ～比羅夫（ニセコ町・倶知安町）

## 北の鉄道風景 44 秋から冬へ

今秋の道内は残暑が続いたものの、10月中旬以降は急激に気温が低下し、11月上旬には道内各地で記録的な大雪となった。札幌市内でも11月6日午前には20センチメートル超の積雪が観測された。同市内での11月上旬の積雪量としては21年ぶりの記録なのだろう。写真はニセコ町と倶知安町の境界付近の函館本線である。道内各地で雪景色となったこの日、

積雪した線路を単行列車が往く。秋から冬へと移ろいゆく季節に最後の彩りを添える落葉松の黄葉が終わる頃には、この辺りも本格的な冬を迎えることになるのだろう。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑪ No.752 平成28年11月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html